

家庭礼拝のための

Seisho nikka

聖書日課

2022年7月・8月・9月 No.123



神様のデザイン 9

ルーテル「聖書日課」を読む会

家庭礼拝のための

聖書日課

2022年7月・8月・9月
第123号

聖書日課の用い方

この聖書日課を〈家族そろっての家庭礼拝〉、〈職場での朝礼〉、〈個人のみ言葉と祈りの時〉などで用いましょう。毎日、時間を決めて続けることでキリスト信仰が深まります。

なお、この聖書日課には、点訳とテープ録音されたものがあります。事務局までお問い合わせください。

一 讃美歌（その日のみ言葉とメッセージの内容にそった讃美歌が選ばれています。）

二 み言葉を耳から聴くことで、神様からの語りかけを静かに受けましょう。

〈グループの場合〉 当番の人が読むか、あるいはみんなで輪読します。

〈ひとりの場合〉 やはり自分で声に出して読むことを勧めます。

＊読む人は、ゆっくり、はっきりと読むようにしましょう。

＊読み終えたら、しばらく沈黙のうちに、み言葉をはんすうしましょう。

三 メッセージの朗読（同じく声に出して、語りかけるように朗読しましょう。）

＊日課のみ言葉から一つのテーマにしばった、牧師によるワンポイント・メッセージです。

＊み言葉を受けての祈りをもって朗読を終わり、しばらくメッセージを静かに深く味わいましょう。

四 自由な祈り（讃美、感謝、願い、とりなし、決意など、心の中の思いを飾らずにまごころをこめて）

五 教会のための祈り

六 主の祈り

家庭拝礼のための

Seisho nikka
聖書日課

2022年7月～9月

No. 123

ルーテル「聖書日課」を読む会

元氣の出る話 最終回

ルーテル聖書日課を読む会 前代表 須田 博之

太田 俊雄著 「矢と歌」より

田村 教会へ行く

大学への往復の途上に、小さな教会があつて、そこにバイブルクラスの案内が出ていた。日曜日の夕方、時間を作つては教会へ足を運んだ。が、誰も来ない。中はひっそりとしている。門に入る勇気が出ずに、何回もそのまま帰つてしまった。教会の敷居が高かつたのである。

そんなことを何回も繰り返し、その日もやっぱり帰ろうとした時に、中からオルガンの音が聞こえて来た。それは柴田先生の英語クラスで学んだ曲だった。懐かしさが胸にこみ上げた。教会はもう気味の悪い所でも敷居の高い所でもなかった。胸をドキドキさせながら、ドアを押し開き中に入った。そこには大柄な外国人の婦人宣教師がいて、四人の青年たちと歌を歌っていた。それは「春のあした 夏のまひる」という五〇三番の訳で知られている讚美歌が、もとの英語で歌われていたのである。それから田村は毎週教会に通つた。

数ヶ月して婦人宣教師が不思議そうに言った。「わたしは十何年も日本で宣教師として働いています。けれども、あなたのように一人で教会に来て、真剣に求道し、素直に福音を受け入れて

下さった方は他にありません」と。田村は答えた。「それは、何年もの間、柴田先生がほくの心を耕し、福音の種を根氣よく蒔いて下さったからです」。

そして昭和七年のクリスマスに彼は洗礼を受けた。それからの日本は軍国化の傾向を強め、キリスト教は敵性宗教として迫害されたが、田村は心温かい高校教師となり、終戦後もバイブルクラスを続け、歴任した高校の生徒たちからは慕われ、最後には新潟敬和学園の校長となり、生徒たちの尊敬を一身に受けた。数々の心温まるエピソードを残した教師中の教師であつた。(完)

私がキリスト信仰を持つに至つたのには、宣教師夫妻の示してくれた深い愛情に負うところが多いのです。私たちもそのような諸先輩の御足の跡を踏み従いて、温かい思いやりを示すキリスト者でありたいものです。

「元氣の出る話」の執筆を思い立ったのは、明治以降、幾多の困難の中で、福音宣教のために人生を捧げられた素晴らしき諸先輩を紹介したいと思つたからです。たった一人しか紹介できず、それも途中で筆を置くことになりましたことは残念でもあり、期待して頂いた読者の方々は、誠に申し訳なく思ふ次第です。読後の感想をお寄せ下さった方々、感謝致します。

7月1日（金）

生活と人生

二コリ八章一〜七（二） 讃21四六〇 教会四一四

エレ五一章四七〜五八 詩六六編一〜九 二コリ八章一〜七

「生活と人生とは違う・・・生活上のマイナスは人生上のプラスと置き換えられた・・・それがやっとわかった」と、作家遠藤周作は還暦を過ぎた頃に告白しています。作家として世に出たばかりの大事な時に大手術を二回も受け、挫折を幾度も経験しておられます。しかし「私は人生や死や人間の苦しみと正面からぶつかることができた・・・我々の人生のどんな嫌な出来事や思い出すらも、ひとつとして無駄なものなどありはしない。神はその無駄とみえるものに、実は我々の人生のために役にたつ何かを隠している」と語っています。（「老いてこそ遊べ」より）

マケドニア州の諸教会に与えられた神の恵みとして《苦しみによる激しい試練》をパウロは指摘します。日々の生活の上での激しい試練はまさに苦しみです。しかしそうした苦しみこそが《満ち満ちた喜び》を生み出し、人々への愛を生み出しています。試練から逃げないで、真正面から向き合つてこそ、かけがえのない神の愛と恵みを知るところとなり、喜びとなります。

●祈り 苦しみの中に秘められている神の恵みを信じます。
はこびて 函館教会（日福・北海道）

7月2日(土)

福音を伝えるために

ルカ九章一〜六(三) 讃21四〇五 教会二八九

ゼカ一四章二〇〜二二 詩六六編一〜九 ルカ九章一〜六

こちらの教会の庭には桜の木、梅の木、オリーブの木など、いろいろな木々が生い茂り、毎日たくさんの鳥たちがやって来ます。空の鳥を見よ、野の花を見よ、と言われたキリストの言葉を味わっています。神の恵みにつつまれ、鳥や花は思いわずらうことなく生きています。その姿はじつに軽やかで、心打たれます。

キリストは福音宣教に出る弟子たちに余計なものを持っていかないように命じられます。必要なものはすべて彼らには与えられていました。また旅先で必要となるものは、その都度彼らに与えられるからです。

あらためて思います。福音を伝えるために必要なもの、それは福音に生きている「人」です。この世の富や名声などは不要です。それらを余計に持つと、福音を見失う危険性があります。《旅には何も持つて行つてはならない》。このキリストの言葉が心に響きます。

●祈り 福音に生き、福音を伝える者として導いてください。札幌教会札幌礼拝堂(日福北海道)

蒔いたものを刈り取る

讃21五〇四 教会四七六

イザ六六章一〇～一四 ガラ六章七～一六 ルカ一〇章一～一二、一六～二〇

その一本の電話は大学生活が始まった四月の終わり頃、わたしの下宿にかかってきました。宣教師が主催するサークルで部長をされていた同じ大学の先輩からの電話でした。この電話が発端となり、わたしは宣教師やクリスチャンの学生たちと出会い、聖書を学び、洗礼へと導かれることとなります。還暦を過ぎた今、わたしが思うのは、あの一本の電話を神さまが用いて下さり、ひとりの罪人を永遠の命へと導かれ、さらに十数年後、牧師へと導かれたということです。

キリストを信じて歩んでいる人の小さな言動が、じつに大きな力となって、迫ってくることはありません。押しつけがましくではなく、聖書からの暖かいひと言や小さな笑顔から、大きな励ましを得たような経験はきっと誰にもあると思います。思いわずらいが吹っ飛んでしまったこともあると思います。キリストと共に歩んでいる人のちょっとした愛の語りかけや笑顔をとおして、福音にふれ、救いへと導かれた人は、たくさんおられると思います。

自分でなろうとして《霊に蒔く者》になれるものではありません。わたしたちに出来ることは、

いつもキリストの愛につつまれて自分を生きていく、ただその一事^{いちじ}です。つらい思いをしている人を見て、自分がなんとか救ってやろうなどと思いがちなのではなく、つらい思いをしている人に静かに寄りそい、その人の語る言葉に耳を傾け、その上で何か自分に出来ることがあるなら、どんなに小さなことであろうと、それをさせていただく。後は、主なる神さまが、わたしたちの小さな愛の行為を用いて、その人を導いてくださることを祈るだけです。

パウロが語っている《たゆまず善を行いましょう。飽きずに励んでいけば、

時が来て、実を刈り取ることとなります》とは、わたしたちに行うことの出来る《善》すなわち愛の行為はとても小さなものであっても、その小さな愛の行為を主なる神さまが豊かに用いて下さるということです。神さまは小さな一本の電話を用いて、大きな祝福と恵みへと導かれるほどの方です。

●祈り きょうも一日、神さまを信じて精一杯に歩みます。札幌教会札幌北礼拝堂（日福・北海道）



7月4日（月）

主なる神を畏れる^{おそ}

詩二一九編七三〜八〇（七四）

讃21四九三 教会三七一

エレ六章二〇〜一九 詩二一九編七三〜八〇 使一九章二〜二七

その人が何を畏れているのか、実際のところはなかなかわからないものです。口ではいろいろとすばらしいことを語っていても、実際にその人が畏れているのは、この世の富や名声、肩書きや学歴などである場合もけっして少なくありません。

以前にも引用しましたが、アフガニスタンでテロによって殺害された中村哲さんはいつも言うておられました。「口先ではなく、行動で示せ。俺は行動しか信じない」。キリストご自身、ご自分が語られた言葉が真実であることをまさに行動によって示されました。

《あなたを畏れる人はわたしを見て喜びます》。真実の神を畏れる人は、同じように真実の神を畏れて歩んでいる人を見ると、喜びをいただきます。どんなにきびしく、つらい状況にあっても、神を畏れつつ歩む人にとって、自分と同じように神を畏れ、神の言葉を待ち望みつつ歩んでいる人の姿を見るだけで、大きな力と励ましを得ます。

●祈り 主よ、あなたを畏れることはすべての初めです。白根教会^{しろね}（日ル・新潟）

7月5日(火)

主なる神にゆだねる

詩一九編七三〜八〇(七八)

讃21五三一 教会三三七

エレ八章四〜一三 詩一九編七三〜八〇 使一九章二八〜四〇

真実の神を畏れ^{おそ}ない人は多い。われわれ人類が戦争を繰り返すのは、真実の神を神として畏れず、いわば自分を神としてしまふからでしょう。日常の様々な人間同士の争いも、結局のところ、真実の神を畏れず、自分の信条や保身ゆえに起こるものです。キリスト教会の内外を問わず、そうしたことは見られます。牧師といえども弱い人間です。ひとことではけっしてありません。

自分は真実の神を信じて歩んでいても、身の周りに人々を偽^{いつわ}りによつて迷わせる傲慢な者がいたら、混乱や争いが起きます。《わたしを偽りによつて迷わせた傲慢な者が恥に落とされますように》。これはすごい祈りです。傲慢な者への怒りの気持ちを真実の神にぶつけています。傲慢な者に直接ぶつけているわけではありません。自分で報復するのではなく、神による聖なる裁きにゆだねています。人々を迷わせる傲慢な者への仕打ちを真実の神にゆだねる。泣き寝入りするのではなく、相手に報復するのでもありません。神を畏れる者は、神の聖なる裁きにゆだねる者です。

●祈り 聖なる神であるあなたにすべてをおゆだねします。^{せんぼく} 泉北教会(近畿・大阪)

7月6日(水)

悔い改めつつ

ルカ二〇章二三～一六(一六)

讃21三〇〇 教会三八六

ヨシユ二三章一～一六 詩一九編七三～八〇 ルカ二〇章二三～一六

コラジン、ベトサイダ、カファルナウムは、いずれもガリラヤ湖の北の町々です。キリストが福音宣教をお始めになった町々です。しかし多くの人々は悔い改めませんでした。そのような人々に《不幸だ》とキリストは叫びました。

《不幸だ》という言葉は「おまえたちのことはもう知らん！」ではなく、壁に頭をぶつけたときなどに発する「痛い！」を意味する言葉です。別訳では「ああコラジン。ああベトサイダ。」と、「ああ」と訳されています。悔い改めない人々をご覧になって、キリストは深く心を痛めておられます。心を痛めつつ、身勝手な人々に警告を発して、悔い改めへと促しておられるのです。

わたしたちは弱い人間ですからキリストを見失うことは幾度もあります。でもキリストを見失っても、その都度自分の過ちを素直に認め、悔い改めたらいい。しかしもし自分の立場や肩書きなどのゆえに悔い改めることをしないなら、それこそキリストが深く心を痛められることです。

●祈り きょうも一日、主を思い、主に祈りつつ歩みます。吉野川教会(西日本・徳島)

7月7日 (木)

聡明で知恵のある人が

創四一章一四～三六 (三三)

讃21五〇三 教会三九八

創四一章一四～三六 詩二五編一～一〇 ヤコ二章一四～二六

「パプリカひとりでがんばったよ、またいっしょにおどろうね」。三年前に入院した時に、一年生の子から寄せられた手紙です。高齢者施設を訪問し一緒に踊る予定をしていたのに、その前日に足を骨折してしまつたからです。先のことは分からないことを痛感しました。

主は、ファラオの夢を通して、七年間の大豊作と、その後の七年間の飢饉ききんを示されました。ヨセフは、神の助けによつて夢を解き明かし、今後の対策について、ファラオに語りました。

このように先のことが分かればいいと思いますが、現実には、目の前のことに精一杯です。

ヨセフは《聡明で知恵のある人物をお見つけになつて、エジプトの国を治めさせ》ることと、穀物の備蓄をアドバイスしました。それを聞いたファラオはヨセフを大臣に任命しました。

イエス様こそ、このヨセフにはるかにまさるお方です。不安や悩みをすべて打ち明けることができます。聖書に教えられながら、先の見えない今を、主とともに歩んでいきます。

●祈り イエス様に教えられつつ、今を歩みます。みかけ 御影教会 (デイ・兵庫)

真に忠実なお方

創四一章三七、四九（四〇） 讃21四五三 教会三九九

創四一章三七、四九 詩二五編一、一〇 使七章九、一六
《お前をわが宮廷の責任者とする。わが国民は皆、お前の命に従うであろう。ただ王位にあるということだけで、わたしはお前の上に立つ》。ファラオはこう語り、ヨセフに責任者としての大きな権限を与えました。夢を解き明かし、将来の飢饉ききんに備えるように提言したヨセフの言葉に感心し、さらにそこに神の霊が宿っていることに気付いたからです。

こう言うファラオは素晴らしいと思います。エジプトをどう治めていこうかと日夜、心を配っていたのでしょう。神が夢で将来を示したのは、その忠実さをご覧になられたからでしょう。

《キリストは御子として神の家を忠実に治められるのです。もし確信と希望に満ちた誇りとを持ち続けるならば、わたしたちこそ神の家なのです》（ヘブ三章上）。神が、教会と造られた全てを忠実に治めるキリストを送ってくださいました。将来の分らない私たちです。不安に襲われる夜も、真に忠実な主イエス様を見上げ、確信と希望を持って歩んでいきたいと願います。

●祈り 主よ、イエス様を見上げ忠実に歩みます。札幌教会新札幌礼拝堂（日福・北海道）

7月9日（土）

ただ恵みに

ヨハ三章一六、二二（二六）

讃21二七〇

教会二八五

レビ一九章一、四、三三、三七 詩二五編一、一〇 ヨハ三章一六、二二

「ええねん」「それでいい」。歌や本の題名にそのような言葉があふれています。

けれども百万回「いいね」と言われても、たった一回でも否定的な言葉を聞くと、激しく落ち込みます。こんなことを言う「その程度で?」「甘い」「大人になれ」と言われそうです。

《年をとった者が、どうして生まれることができますか》。もう一度母親の胎内に入たいたいって生ま

れることができるでしょうか》（四）とユダヤ人の議員ニコデモも嘆いています。心機一転やり直そうと思っても、思いのままにならない苦しみ。変わらないまま年をとってしまった悲しみを感じます。おそらく社会的にも人格的にも立派なニコデモですらそう思うのであれば、私の人生は甘えと恥と後悔の連続でしかありません。「ええねん」の言葉は一時的な慰めでしかありません。

《神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである》。ただこの恵みの御言葉にすぎるほかありません。

●祈り 主よ、ただ独り子の恵みに信頼します。恵み野教会（日福・北海道）

深い愛で

讃21四七六 教会三七三

申三〇章九〜一四　コロ一章一〜一四　ルカ一〇章二五〜三七
大学時代、演奏旅行が終わり、現地解散。友人と二人で九州から大阪まで、船で一晩かけて帰りました。大部屋で雑魚寝ざこねです。さあ寝ようと思った瞬間、大きな声が響き、訳が分からないまま、後ろからポコポコに。しばらくして気がおさまったのか、相手は部屋を出ていきました。

ほっとしていると、同じ部屋にいた人々が「お前、やかましいわ」「何したんや」と口々に責めてきました。暴行を受けている間、何の音もしなかったので、皆ぐっすりと眠っていたと思っていたのでビックリしました。「ご迷惑をおかけして申し訳ありません」と思わず謝りました。

追いはぎに襲われ、半殺しにされた人が倒れています。《ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った》。レビ人も同じでした。

不思議なことに、イエス様がこのたとえを語られた時、誰も祭司やレビ人をかばって「私たちの尊敬する祭司は、そんなことはしません」とは言いませんでした。もしかしたら「血や怪我人に触れて、宗教的に汚れたことけがになれば、神殿の仕事ができなくて困る。これは仕方がない」と

祭司やレビ人を心の中で弁護していたのかもしれませんが。

次に登場したのはサマリア人でした。当時のユダヤ人は、サマリア人を敵視し、軽蔑していました。イエス様のたとえを聞いた人たちは「^{あわ}よりもよってサマリア人」と思ったでしょう。

けれども、そのサマリア人は《その人を見て憐れに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに任せ、宿屋に連れて行って介抱し》ました。傷ついた人を見て、胸が張り裂けそうになり、危険もかえりみず、最善を尽くしました。

胸が張り裂けそうな深い同情心。それは何よりもイエス様です。人々から誤解され、ついには十字架にかけられました。けれどもその流された血によつて、罪の中でうめく私たちを救い出してくださいました。主は罪と死に勝利して、大胆に生きる新しい命を与えてくださいました。

《行つて、あなたも同じようにしなさい》。救われた者として、「どうか主よ、この弱い小さな者を助けてください」と祈りつつ歩みたいと願います。

●祈り 主よ、イエス様の深い愛に感謝します。^{おひろ}帯広教会（日福・北海道）



分け隔てしない

ヤコ二章一〜七（二） 讃21 一一一 教会三九四

ヨブ二四章一〜八 詩二五編二一〜二〇 ヤコ二章一〜七

この日課が読まれる時には、感染症が収まっていますように祈りつつ、私の反省を述べます。

《人を分け隔てしてはなりません》。けれども、鼻つまりや咳の出る方たちに無用の遠慮をさせていたかもしれません。「大丈夫」と言いつつ、心には避ける思いがあつたかもしれません。

「交わり」のギリシア語、コイノニア。その動詞コイノオーは「汚す^{けが}」「共有する」です。けれども祭司やレビ人のように《道の向こう側》を歩いていたかもしれません（ルカ一〇章三二）。

自分自身や家族に感染者や濃厚接触者が出ると大変です。そうでなくても自粛で生活が変化してしまつた方もおられます。申し訳なさ。不安。いら立ち。多くの人々のその心とどれだけ触れあえたでしょうか。逆に、多くの人が、教会に来ることをためらっているかもしれません。

《隣人を自分のように愛しなさい》。イエス様は「良きサマリア人のたとえ」で《行つて、あなたも同じようにしなさい》（ルカ一〇章三七）と言われました。主よ、憐れんでください。

●祈り 主よ、分け隔てしないイエス様の愛に満たしてください。仙台教会（日福宮城）

憎しみを愛に

一ヨハ三章一一～一七（二六）

讃21四二七 教会三九三

箴一九章一～一七 詩三五編一一～二〇 一ヨハ三章一一～一七

《兄弟を憎む者は皆、人殺しです》。

ぎくりとします。けれどもその直後「どの程度なら、憎むことになるのか」と考えてしまいます。「あの人が悪い。その事実を言ってるだけ。憎むとは違う」と自己弁護をしています。

こうして怒り、憎しみはますます強くなり、当然とすら思ってしまう。主はカインに《罪は戸口で待ち伏せており》（創四章七）と警告しました。罪は私たちの目の前にあります。

《イエスは、わたしたちのために、命を捨ててくださいました。そのことによって、わたしたちは愛を知りました。だから、わたしたちも兄弟のために命を捨てるべきです》。

憎む者ではなく、愛する者へと、イエス様が私たちを招いてくださっています。《わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償^{つぐな}ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります》（四章一〇）。この愛に信頼して歩みます。

●祈り 主よ、イエス様の愛に満たしてください。きたみ 北見教会（日ル・北海道）

7月13日(水)

小さいことも

マタ二五章三一、四六(四〇)

讃21 四四二 教会三三八

コヘ九章二三、一八 詩二五編一一、二〇 マタ二五章三一、四六

「あなたの一言でとても傷ついた」。覚えていない昔のことを言われるとガツカリします。ましてや、イエス様に《飢えていたときに食べさせず、のどが渴いたときに飲ませず》と責められれば、こんなつらいことはありません。《この最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったことなのである》。してしまった悪いことだけでなく、しなかった良いことまで責められれば、もうどうしようもありません。申し訳なきに涙があふれて止まりません。

この御言葉を語られたイエス様は、この後、十字架の道を歩まれます。主の前に立つことのできない罪深い私たちのためです。この主だけが、最も小さなこの私を赦し、いやし、支えてくださいます。罪と恥に満ちた私たちを、ご自身の血による義の衣で覆おおってください。

《わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである》。忘れてゐる小さいことも覚えてくださっている、十字架のイエス様の恵みに信頼します。

●祈り イエス様の恵みによって罪を覆ってください。八尾教会やお(近畿・大阪)

7月14日(木)

わかってくださる

へブ五章一〜六(二) 讃21四二五 教会三四六

創二二章一〇〜二〇 詩一五編 へブ五章一〜六

大祭司と言うと、どのようなイメージをお持ちでしょうか。福音の時代に生きる私たちには、過ぎ去った古い時代の制度のようにも思えます。しかし、罪の赦しに関して《人々のために神に仕える職》であると聞くと印象が変わってきます。更に、《弱さを身にまといつつある》とまで言われる。だからこそ、同じく弱い私たちのことを思いやることができる、と言われていきます。

共通項があると、人はほっとします。弱さを抱えているのは自分だけだ、と思えば、その弱さをうかつに出すことはできません。しかし、大祭司という、少し遠くに感じてしまうような存在と、何と《弱さ》という点で共通している、ということになると、わかってもらえている、という安心感が生まれます。そして、私たちの救い主であるイエス様が大祭司と呼ばれることを知ると、今度は「イエス様にわかってもらえている」と思えるようになり、それが平安につながります。私たちは大祭司であるイエス様の思いやりを味わうことができますのです。

●祈り イエス様の思いやりに感謝します。あなん 阿南教会(西日本・徳島)

7月15日（金）

祈りの人

エフエ三章一四、二二（二七） 讃21四六一 教三三八五

創一三章一、一八 詩一五編 エフエ三章一四、二二

祈りの人、と言つて思い浮かべるのは誰でしょう。今日の聖書の個所では、何と言つてもパウロではないでしょうか。一章に引き続き、この個所でも、豊かな祈りが収められています。

パウロは何を見ていたのでしょうか。それは、御父とその栄光でした。そこから、パウロの口に祈りが生まれたのです。パウロは、御父がエフェソの信徒たちの内なる人を強め、信仰によつてその心の内にキリストが住むようにしてください、そして愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださることを信じました。内にキリストを宿す幸い。ここまでキリストは私たちの近くまで来てくださるのです。そして《愛》という言葉が二回繰り返されていますから、それによつて愛が強調されている、と読むことができます。内側にキリストを宿した者は、その生き方の方向性として、隣人を愛して生きるのです。それを実現させてくださるのは御父です。その御業を見て、私たちはパウロと声を合わせ、その栄光をほめたたえるのです。

●祈り 神様、内にキリストを宿す者として祈り続けます。そのだ 園田伝道所（デイ・兵庫）

神様の備え

創一四章一～一六（二六） 讃21四〇八 教会四五四

創一四章一～一六 詩一五編 られつ ルカ八章四～一〇

今日の聖書の個所には、耳慣れない王の名前の羅列られつがあり、話がわかりにくいところがあります。そのような中で突如告げられるのが、ロトとその財産が奪われたことで、なお驚かされるのは、アブラムが追撃してロトたちを取り戻した、という事実です。アブラムは《彼の家で生まれた奴隷で、訓練を受けた者三百十八人を招集》したと言われています。

ある年のクリスマスコンサートのことですが、フルート二重奏をしていました。何と途中で私の楽器の調子が悪くなったのですが、相手の方が予備の楽器を出しておられたので、急遽きゆうきよそれをお借りして事なきを得ました。神様の不思議な助けです。ロトの場合は、命が懸かっていました。そのような時に《訓練を受けた者》がいたことは、単に「備えあれば患うれいいなし」ということを越えて、神様の恵みとも言うべき備えでした。神様に従って故郷を出てきたアブラムに、神様はどのように応えていてくださったのです。

●祈り 神様、あなたの備えを感謝します。つるがや 鶴ヶ谷教会（日福・宮城）

沈黙

讃21五二九 教会三〇三

創一八章一〜一〇a コロ二章一五〜二八 ルカ二〇章三八〜四二

二人の姉妹がいました。ずっと同じところで育ったはずですが、それぞれ違った個性を持った女性として成長しました。マルタとマリアのことです。

この個所と、ヨハネの福音書に出てきます。そちらでは、ラザロという兄弟も登場します。

この個所は、不思議なことに、あの有名な「良きサマリア人のたとえ」のあとに続きます。《行つて、あなたも同じようにしなさい》（三七）と、行動を促すイエス様の発言があり、続いて、この《いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていた》マルタが登場する、という流れです。

人は価値観を共有したいものなのでしょう。もてなしに忙しいマルタは、

イエス様の足もとに座つてそのお話に聞き入っているマリアと、価値観が合わないことに気付きます。そうすると、こともあろうに、マリア本人に言うのではなく、イエス様に、《わたしの姉妹



はわたしだけにもてなしをさせていますが、何とも思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください」などと言いつちます。

別にマリアは、マルタだけにもてなしを「させている」わけではありませんでした。それに、マルタはイエス様に対して《何ともお思いになりませんか》と迫りますが、どう思ったら合格なのでしょう。自分の価値観を押し付けようとするタイプの人がいかにも言い出しそうなセリフです。みんな同じ価値観を持たなければならない、という思いが高じて、このような結果になったのです。

それに対して、沈黙を貫き通すマリア。マルタに一方的に非難されるような形になりましたけれども、それに対して何も言っていない。何も弁解せずによかったのでしょうか。でも、本来《行つて、あなたも同じようにしなさい》というみことばに生きる人の姿というのはマリアのよきな姿なのかもしれません。自分にもこだわらない。非難されても反撃はしない。このような生き方に憧れます。

●祈り 主よ、私たちも御心かなに適うことを選びますように。千葉教会（日福・千葉）

7月18日（月）

キリストが私の内に

コロ一章二七、二章七（二八）

讃21四五—教会三七—

出一八章一、二—詩一九編九七、一〇四　コロ一章二七、二章七

キリストはどこにおられるのか。パウロははっきりと、『あなたがたの内におられる』と述べています。併せてキリストは『栄光の希望』であるとし、『このキリストを、わたしたちは宣べ伝えて』いる、と書いています。パウロたちの願いは、『すべての人がキリストに結ばれて完全なものとなる』ことでした。すべての人です。そこに例外はありません。どう考えてもこれは無理なものではないでしょうか。すでにほかの宗教を信じている人もいるのですから。

しかし、パウロは栄光の希望であるキリストに信頼していました。パウロはすべての人をキリストに結び付けようとしていたわけですが、そもそも、イエス様ご自身が、私たち人間とのつながりを求めておられる方だ、と信じていたのです。だから、パウロに迷いはありませんでした。きつとキリストと人間の間には良い関係ができるに違いない、そのように信じて、宣教を続けたパウロ。現在、世界の人々はその宣教の^み実を見えています。

●祈り　主よ、あなたとのつながりを大事にします。千葉教会銚子集会所（日福・千葉）
ちようし

7月19日（火）

最高の弁護者

一ヨハ二章一〜六（二） 讃21三三八 教会三三五

箴九章一〜一八 詩一九編九七〜一〇四 一ヨハ二章一〜六

キリストは私にとってどんな存在なのか。皆さんもしばしばお考えになることだと思います。今日の聖書箇所ですと、ヨハネが《御父のもとに弁護者、正しい方、イエス・キリストがおられます》と述べ、私たちに御父のもとにおられる《弁護者》としてのキリストを紹介しています。

このようなことはないでしょうか。一方的に非難されるばかりだったので、どうやって弁解しようかと考えてしまう、といったことです。そんな時、無理に弁解しなくてもよいのです。父なる神様のもとに、私たちのことをよく知っておられる弁護者、イエス様がおられるからです。弁解したい、というのは、どこかで自分は正しい、と思っていて、それを主張したい気持ちの表れなのだと思います。しかし、私の正しさは、《正しい方》であるイエス様が証明してくださるので、自分で自分を弁護しないことに決めると、不思議と平安が心に訪れます。弁護者であるイエス様にゆだねる思いになっているからです。いつもその平安の内に留まっていたいものです。

●祈り 主よ、いつも私を弁護してくださって感謝します。つだぬま 津田沼教会（日福・千葉）

手間をかけて

申二章一〜二二（五） 讃21四五八 教会三四九

申二章一〜二二 詩一九編九七〜一〇四 ヨハ六章四一〜五一

私たちは普段、国の法律など、何かしらの約束事に基ついて生きています。その上でさらに聖書から《掟と法》^{おきて}を学ぶとなると、それは重荷でしかないのではないですか。イスラエルの民は、神様の指定された場所で行きつけを献げるよう求められています。《必ず、あなたたちの神、主がその名を置くために全部族の中から選ばれる場所、すなわち主の住まいを尋ね、そこへ行きなさい》と記されている通りです。これはある意味で重荷ですし、手間もかかることです。

しかし、この手間を惜しまないということが、信仰生活において重要になってくるのではないのでしょうか。じっくり聖書を読むこと、信仰の成長を待つことを、時間がかかっても大事にするのです。主の選ばれる場所を尋ね求め、そこに行つて献げものをするのは人間の都合優先ではなく、神様を優先させる考え方です。それが、神様ご自身を大事にすることにつながり、人間中心ではない、神様中心の信仰スタイルが徐々に築き上げられていくことにつながるのです。

●祈り 神様を中心とした信仰の歩みをさせてください。旭川聖パウロ教会（日ル・北海道）

エステル、本名はハダサ

エス二章一九～三章六(二二)

讃21一九六 教会三九八

エス二章一九～三章六 詩二三八編 使一章二五～二〇

『エステル記』 旧約聖書の中の一文書です。ユダヤ教の分類では「諸書」の一つで、私たちの旧約聖書では、一連の「歴史書」の最後に置かれています。配列順が異なるのは、ユダヤ教とキリスト教では、『エステル記』の評価、扱いが違ふということです。

ユダヤ教では、『エステル記』は、「プリム祭」の際に、ユダヤ教の会堂(シナゴグ)で読まれる習慣があります。「プリム祭」とは、エステルの勇気によってユダヤ人が救われたことを記念し、祝う祭りです。エステルがそのような大役を担うことになったのは、彼女がペルシャの王クセルクセスの王妃となつたからでした。エステルの後見人であつたモルデカイは、ペルシャ王の高官ハマンに目を付けられていました。それはモルデカイがハマンにひざまずいて敬礼しないからです。ハマンは、モルデカイがユダヤ人であると知つて、彼だけでなく、ユダヤ人の絶滅計画を企てます。エステルの本名はハダサです(二章七)。それはミルトス、銀梅花のことです。

●祈り 神様、あなたは、私たちを用いて、救いのみわざを成し遂げてくださいます。和歌山教会(近畿・和歌山)

ブルと呼ばれるくじ

エス三章七、一五（七） 讃21三八八 教会四三二

エス三章七、一五 詩一三八編 使二章二、三六

ハマンはブルと呼ばれるくじで、ユダヤ人絶滅計画を実行する日を決めました。そのくじ、プルから、「プリム祭」と呼ばれるようになりました。祭りの日、ユダヤ教の会堂では、『エステル記』が朗唱ろうしょうされますが、「ハマン」の名が読まれる時、皆でカスターネットのような楽器を叩いたりして、その声を聞こえなくするそうです。また、「ハマンの耳」というお菓子を食べます。それはユダヤ人を殺そうとしたハマンを忘れないためです。

ところが、王はハマンを同僚の大臣の誰よりも高い地位につけました。さしずめ総理大臣級にばってき拔擢です。王は、ハマンの提案をそのまま受け入れ、《その民族はお前が思うようにしてよい》と、その絶滅計画を許可します。ユダヤ人は老若男女を問わず一人残らず滅ぼされ、殺され、絶滅させられ、その持ち物は没収されることになりました。ちなみに、ハマンは、イスラエルの初代王サウルの宿敵アマレク人の王の家系に属する子孫の一人です。

●祈り 神様けんぽうじちうきん 権謀術策うごめく人の世にあつて、あなたの支配を信じて生きていきます。市川教会（日福・千葉）

この時のためにこそ

エス四章一〜一七(一四) 讃21五二七 教会三三八

エス四章一〜一七 詩二三八編 あらめの ルカ八章二一〜二五

ハマンのユダヤ人絶滅計画を知ったモルデカイは、衣服を裂き、粗布をまとって灰をかぶりま
す。それは深く、大きな悲しみの表現です。その悲しみは一人モルデカイだけでなく、ユダヤ人
の間にも大きな嘆きが生じました。モルデカイは、王妃エステルにこの絶滅計画を告げ、同胞を
救うために、クセルクセス王に執り成してくれるように頼みます。エステルは躊躇ちゆうちよします。クセ
ルクセス王は絶対権力者です。前の王妃ワシユティが王の命令に従わず、退位させられたように、
王の気まぐれで何が起きるかわかりません。

モルデカイは、尻込みするエステルに対して、《この時のためにこそ、あなたは王妃の位にまで
達したのではないか》さとと諭し、叱咤しつたげ激励します。エステルの心を、神の時、神の摂理へと向けさ
せたのです。エステルはユダヤ人に三日三晩の断食を共にするよう求めました。断食は特別な祈
りを伴います。エステルは窮地きゆうちに立たされたユダヤ人たちに、共に祈るよう求めたのです。

●祈り 神様、決断が求められる時、まず祈る者としてください。三田さんだフェローシップ教会(ディ・兵庫)

祈りを教えてください

讃21六三 教会三六四

創一八章二〇～三二 かたわコロ二章六～一五 ルカ二一章一～二三

ルカは、祈るイエス様と、その傍らに弟子たちがいる光景を描いています。この場面では、イエス様が祈り終わると、弟子の一人が《主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください》と願い出しました。《わたしたちにも》と言うのですから、これは弟子たち全員の願いでしょう。弟子たち皆が、《祈りを教えてください》と願ったのです。

弟子たちは、これまでに祈ったことがなかったのでしょうか。そもそも祈りを知らなかったのでしょうか。そんなことはないでしょう。弟子たちはユダヤ人ですから、祈ることは身近なことであり、生活の一部でした。そんな彼らが、《祈りを教えてください》と願い出たのです。

彼らは、イエス様が祈っておられる姿を見て、そこに、自分たちの祈りとの違いを感じたのではないのでしょうか。ユダヤ人が当たり前のようになっている祈りとは違う何かを感じたのです。

確かに、教えられなければ、できない祈りがあるのです。その代表、典型が「主の祈り」です。

「主の祈り」は、教えられずにはできない祈りです。人間誰しも、自分ではなく、神様の名前こ

そが大きくされますように、とは祈らないものです。

ある時、イエス様は《天地の主である父よ》と呼びかけて、《あなたをほめたえます》（一〇章二）と祈られました。この祈りは、弟子たちを驚かせたことでしょう。何が驚きだったかというと、イエス様が神様に、「父よ」と呼びかけている点です。「父よ」と呼びかけて祈る。それは、ご自分と神様との間に、

父と子の深い信頼関係、父と子の一体性、愛と信頼に裏付けられた交わりがあるということ。それはユダヤ人たちの常識からすると驚くべきことでした。自分たちの全く知らない祈りの世界にイエス様は生きておられることを弟子たちは感じていたのです。

イエス様は、十字架にかけられる前夜、ゲッセマネで、「アツバ」と呼びかけて祈られました。「アツバ」は小さな子供が父親を呼ぶ言葉、日本語で言えば「お父ちゃん」です。そう呼びかけるイエス様は、十字架という神の全能を粉碎するような悲劇を通してでも、神はその救いの計画を遂行される全能であるとの信頼を示されたのです。これこそ、恵みのみの信仰です。



●祈り あなたのみ子、主イエスによって愛されていることを感謝します。六甲アイランド教会（西日本・兵庫）

悪巧みをするものことのでいら立つな エス五章一〜一四（二）讃21 一四九教会三四〇

エス五章一〜一四 詩五五編一七〜二四 コロ二章一六〜三章一

エステルは、モルデカイからの特命を受けて、命がけで王とハマンを酒宴しゅえんに招待します。しかしその時は、エステルは願いを王に打ち明けません。王はじらされています。《願いとあれば、国の半分なりとも与えよう》と王は繰り返すのですが、エステルは、もう一度、酒宴の席を設けることにします。その席に招かれるのは、王とハマンだけです。こうすることによって、宮廷の役人たちを除外した三人だけの席で、エステルは王に命がけの願いを伝えようとしたのでした。

ハマンの得意げな表情、そのはしゃぎぶり、有頂天うちようてんになつてゐる様が描かれています。実に「大げない」振る舞いと思えますが、自戒としましょう。有頂天のハマンも、モルデカイのことを思うと、不愉快になり、意気消沈します。そんなハマンを見て、妻のゼレシュは、モルデカイを木につるすよう進言します。その木の高さは五十アンマ、二〇メートル以上です。おそらく王宮の宴会の席から見えたでしょう。モルデカイをさらし者にしようというわけです。

●祈り 不正を行うものを羨うらやむことなく、あなたに委ねることができすように。 梶台教会（日福千葉）
みのりだい

7月26日（火）

神様の決めた時

エス六章一〜七章六（七章六）

讃21三八七 教会三五六

エス六章一〜七章六 詩五五編一七〜二四 ロマ九章三〇〜一〇章四

《その夜、王は眠れな》かったのです。「明日、お話しします」などと言われれば、気になって寝付けないものです。侍従たちは王に宮廷日誌を読んで聞かせます。すると、かつて王を暗殺しようとする企て^{くわた}があつて、モルデカイがそのことを報告したと書いてありました。王の危機を救つたモルデカイの働きに報^{むく}いていないことを気づき、報いようと考えます。今さらですが、すべてに時があります。「時」は神が定め、最適な時に、最適な方法で、神は事をなされます。モルデカイが、遅ればせながらも報われるのは、同胞ユダヤ人の危機^{ききそんぼう}存亡の、この時でした。

それは、ハマンがやつて来て、モルデカイ処刑の許可を得ようとした時です。王はハマンに、「榮譽を与えようと思う人にはどうしたらよからうか」と質問します。ハマンはてっきり自分のことだと思い込み、ありつたけの報いを提案します。すると王は、「それは良い考えだ。急いで行って、お前が提案したとおりのことをモルデカイにきなさい」と命じました。大逆転です。

●祈り 神様、あなたの決められた時を、望みのうちに待ちます。小岩教会（日福・東京）^{こいわ}

自分のまいたものを刈り取る エス七章七〜八章一七（七章一〇） 讃21 四一三 教会四三四

エス七章七〜八章一七 詩五五編一七〜二四 マタ五章四三〜四八

時系列からして二日目の食事の席、三人が酒を汲み交わしくつろぎ始めたころ、王は再びエステルに願う事をするように語り掛けます。モルデカイが栄誉を与えられた後でもあり、時は満ちたのです。エステルはついに語り出します。王にとって、彼女の告発は驚くべき内容でした。

王は、《一体、誰がそのようなことをたくらんでいるのか》と問います。エステルは、《その恐ろしい敵とは、この悪者ハマンでございます》と答えました。王は怒って席を立ち、王宮の庭に出ます。ハマンはエステルに命乞いをしようとその場にとどまります。それが逆に彼の命とりとなりました。宦官^{かんがん}ハルボナの言葉によってハマンの罪は確定します。ハルボナは王の侍従の一人として他の侍従たちと一緒にハマンを王妃エステルの酒宴に連れて行く際に（六章一四）、ハマンの家を立てられた高さ五十アンマの木の柱を目にしていたのでしよう。こうしてハマンは自分が立てた処刑用の木の柱につるされ、処刑されました。王の怒りは治まりました。

●祈り 神様、あなたへの畏れを忘れず、この日の務めを果たさせてください。聖パウロ教会（日福東京）

7月28日(木)

神への賛美

ロマ二一章三三～三六(三六) 讃21一八 教会二六七

箴三章一～一一 詩四九編二～一三 ロマ二一章三三～三六

私たち人間が、いくら神を探し求めたとしても、神が、ご自身を隠されたならどうでしょう。誰一人として、神を見出すことはできないのです。しかし感謝なことに、神はご自身を示してくださり、救いの恵みをお与えくださいました。ところが、パウロが活躍した当時、イスラエル人の多くが、イエスさまを拒否してしまいました。神に選ばれた民族だというのに、どうしたことでしょうか。神の救いのご計画が、失敗したかのように見えます。確かに今も、イエスさまを救い主として信じるイスラエル人は少数です。ですが、これも神のご計画のうちなのです。

パウロが感動を持って語っているように、人の思いを越えて最善へと進んでいくもの。それが神のご計画です。そのご計画によって、私たち異邦人は、イスラエル人よりも先に救いの恵みにあずかっています。しかし時が来たなら、イスラエルの民族的な救いは成就します(ロマ二一章二六)。すべてを支配しておられる神と、そのご計画に信頼しつつ、今日も歩んでまいりましょう。

●祈り 「神の知恵と知識」の素晴らしさを私に教えてください。 深川エマヌエル教会(日ル・北海道)

新しい生き方への招き

エフエ四章一七、二四（一）

讃21 七八

教会一九五

箴二四章一、二二 詩四九章一、二三 エフエ四章一七、二四

コロナ禍を境に、私たちの生活は、何と大きく変化したことでしょう。例えば、以前は花粉症だろうと風邪をひいていようと、人前で語るときはマスクを外すようにと促されたものです。

今はまったく正反対。とにかくマスクを着用しないことには、外に出られない状態です。「早くマスク無しの生活をしたい」。そう心待ちにしておられるかもしれませんね。

しかし、信仰者としての生き方については違います。一度と以前の状態に戻ってはいけません。古い人とは、生まれながらの性質です。この世で生きる時、以前のライフスタイルが魅力的に映ってしまうことがあるかもしれません。しかしお風呂ですっかり綺麗にした後で、汚れた服をまといたいと思う人がいるでしょうか。イエスさまの十字架の贖い^{あがな}を信じ受け入れた人は、罪から清められて《神にかたどって造られた新しい人を身に着け》させていただきました。このことをいつも覚え、新しい命に生かされた恵みに感謝しつつ、み言葉に従ってまいりましょう。

●祈り 神よ、み心になつた生活を歩ませてください。^{かなな} 海南教会（近畿・和歌山）

主の慈しみのもとに

マコ二〇章一七、二二(二二)

讃21一九七 教三九四

コヘ一章一、二 詩四九編二、一三 マコ二〇章一七、二二

イエス様のもとに走り寄ったのは、お金持ちの男性でした。豊かな財産は、神さまに祝福されている証拠。それが当時の考え方です。でも彼には、永遠の命の確信がありません。そこで《何をすればよいでしょうか》と尋ねています。これこそ大きな勘違いです。

罪の赦しと永遠の命は、信仰という管を通して与えられる、神さまからの一方的な贈り物。恵みなのです。私たち人間の行いによるものではありません。そんな彼を慈しまれたイエス様。《行っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい》との提案をなさいます。そして《わたしに従いなさい》と招かれました。しかし彼は、立ち去ってしまいました。

十戒ならちゃんと守っている。そう自負しながら、彼の心の王座を占めていたのは、神ではなく、その豊かな富だったからです。慈しみ深いイエス様の招きの声に「あなたこそ、永遠の命をお与えになる神です。あなたに信頼します」。そうお答えしようではありませんか。

●祈り 神よ。あなたの慈しみのうちにとどまらせてください。HAT神戸教会(西日本兵庫)

愚かな金持ちとならないように

讃1101 教会三七一

コヘ一章二、一二、一四、二章一八、二三、コロ三章一、一一、ルカ二二章二三、二二
あなたにとつて、成功とは何ですか。未来に備えた財産を築くことですか。確かに、ある程度
の蓄えを持つて、将来に備えることは大切です。お財布が分厚い時と、そうでもない時とでは、
気持ちの余裕が少し違うように、富の問題は、心と直結しています。

今回は、遺産の分け方の仲裁をして欲しい。そうイエス様に依頼してきた男性が登場します。
彼の心には、貪欲どんよくという問題があることを認めたイエス様。「愚かな金持ち」のたとえによつて、
その危険を教えようとなさいました。

この金持ちは、恐らく不在地主でしょう。自分は働かなくても、雇い人が畑を耕して、収穫を
もたらしてくれます。今なら、不動産や株式への投資による不労所得がある富裕層と言ったところ
でしょうか。多くの人が、憧れあこがを抱く人生かもしれない分は、貧しい人に分けてあげよう。この金持ちは、
得ました。「もう十分だ。倉に入りきらない分は、貧しい人に分けてあげよう」。この金持ちは、
そうは考えません。あくまでも、自分のために蓄えようとしていました。

しかし神は言われます。『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか』と言われた。倉にあふれる穀物。それは生きている間、彼の喜びと信頼の源でした。ですが死後には、何の保証もしてくれません。この世を去る時が来ることを考慮せず、本当に頼るべきお方、神さまに信頼しなかった。だから、この金持ちは愚かなのです。

『どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい』とのイエス様の警告に、しっかりと心の耳を傾けましょう。たとえ豊かな財産をお持ちでなかったとしても、人の努力では、決して手に入らない最高に高価な宝。永遠の命は、信仰と恵みによって、神がお与えくださいます。

『あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです』（コロ三章三）。

富ではなく、キリストとの親しい交わりを貪欲に求めてまいりましょう。キリストに信頼する者こそ、真の成功者なのです。

●祈り 神よ、あなたの前に、豊かな人生を歩ませてください。豊浜教会（ティ・香川）



8月1日(月)

キリストに対してするように

コロ三章一八、四章一(二三)

讃21六六 教会二四七

コヘ二章一、一七 詩一二七編 コロ三章一八、四章一

学んだことを、しっかり自分のものとしたい。そう願うなら、テキストを読むことだけで終わらせず、毎日の生活に生かす。それが近道です。信仰生活も、み言葉の実践が大切です。

神はパウロを通して、クリスチャンとしての具体的な生き方を教えてくださいました。夫婦、親子、そして奴隷と主人の関係が取り上げられています。もちろんパウロは、奴隷制度を肯定しているわけではありません。当時の社会の現実に即して教えているのです。どの関係においても大切なのは、《主を信じる者に与えられし生活するということ》です。

ですが人間関係は、悩みの種ですね。信仰者であつても、お互いの振る舞いに苛立ちを覚え、うまく対応できない時もあります。神は、ご存じです。そして「自力でがんばれ」とはおっしゃいません。み言葉を実践する力は、神がくださる贈り物です。日々の祈りとみ言葉の学びを通して、その贈り物をしっかりと受け止め、成熟を目指して歩んでまいりましょう。

●祈り 神よ、真心で愛し合うキリスト者として成長させてください。小石川教会(日福・東京)

感謝のうちに祈り続けなさい

コロ四章二、六（二）

讃21四九五 教会三七〇

コへ三章一六、四章八 詩一二七編 コロ四章二、六

父なる神さまが、祈りに耳を傾けてくださること。しかも二四時間、何の制限もなく、自分の言葉で語り掛けることが許されていること。これは信仰者の素晴らしい特権です。それを生かさずに、自分ひとりで思い悩んではいませんか。

祈りによる神さまとの会話は、魂の呼吸です。呼吸が止まっているなど感じたなら、ただちに「天のお父さま」と呼び掛けましょう。そして、働き人のための祈りも、ぜひあなたの祈りのリストに加えてください。祈りなしに、主の働きをなすことは不可能からです。

パウロが伝えていた《キリストの秘められた計画》とは、十字架の贖い^{あがな}によって、救いはユダヤ人だけではなく、異邦人にも及ぶという内容です。この栄光に満ちた神のご計画、イエス様の福音が、当時、激しい抵抗に遭いました。そのためパウロは投獄されていたのです。今を生きる私たち自身の言葉や態度も、どうか主にあって、伝道への門を開くものとなりますように。

●祈り 神よ、感謝を込めて働き人のために祈る者としてください。本郷教会（日福東京）

8月3日(水)

思い悩むな

ルカ二二章二三―三一(二四) 讃21四九三 教会三七一

コヘ一二章一―八、一三―一四 詩二七編 ルカ二二章二―三二

悩み事や心配事で、眠れないまま朝を迎えてしまう。そんな時の疲労感は、私たちから喜びと平安を奪い取ってしまいます。だからイエス様は、《思い悩むな》と強く命令なさいました。

そのために語られた、「^{からす}鳥と野原の花のたとえ」は、とても麗しく、^{うるわ}慰めに満ちています。鳥は、旧約聖書のレビ記では、汚^{けが}らわしいものとして登場します。しかし、そんな鳥を神は養ってくださいます。野原の花も、どれほど大金を投じたとしても、決して人間には再現できない。それほどの美しさで、装ってくださっています。

それならば、神にかたどって造られた私たち人間は、どうでしょう。その価値は、イエス様が、ご自分の命を差し出してまで、救い出そうとなさったほどに高価です。今、神があなたのことを気にかけておられないはずがありません。思い悩む代わりに、造り主なる主への信頼を深めようではありませんか。私たちの心の中が、神がご支配なさる場所。神の国となりますように。

●祈り 神よ、あなたに頼る者を思い悩みから解放してください。板橋教会(日福東京)

8月4日（木）

約束の子

ロマ九章一〜九（八） 讃21四五九 教会四一〇

ヨブ二章一〜一六 詩三三編一二〜二二 ロマ九章一〜九

人の人生は、親からの影響を受けます。親の性格、家庭環境は、人生に大きな影響を与えます。それらは、本人にとって受け入れがたい重荷になる時があります。なぜ、自分はこのような体や血筋に生まれたのかと、自分の運命を嘆きたくなることがあるかもしれません。

しかし、人生を決めるのは、親から受け継いだものではなく、神の約束です。アブラハムの子供には、ハガルから生まれたイシユマエルも、ケトラから生まれた六人の子供もいましたが、神の子供とされたのはイサクでした。彼が《サラには男の子が生まれる》という神の約束に従って生まれ、《イサクから生まれる者が、あなたの子孫と呼ばれる》という約束を受けていたからです。

洗礼を受けている人は、神の約束に従って生まれた子です。その約束とは《この救いは、聖霊によつて新しく生まれさせ、新たに造りかえる洗いを通して実現した》（テト三章五）というものです。私たちの人生を決めるものは、肉が受け継いだものではなく、神の子とされる約束です。

●祈り 神様、私をあなたの子となさる約束を信じて感謝します。東京池袋教会（日福・東京）

8月5日（金）

神殿ではなく神

使七章一〜八（五） 讃21四四一 教会三九七

コヘ六章一〜六 詩三編一二〜二二 使七章一〜八

ステファノは、恵みと力に満ち、すばらしい業を民衆の間で行いました。知恵と^{わざ}霊によつて語り、反対者たちを論破ろんぱしました。そこで反対者たちは、ステファノが神殿と律法をけなしていると訴えました。彼らは神殿での祭儀さいぎを守ることを誇りとしていたからです。

これに對して、ステファノは聖書から弁明します。「神殿が建っているこの土地は、神がアブラハムを導いて、子孫たちに相続させると約束されたものではないか」「いと高き神は人の手で造つたようなものにはお住みにならないと、預言者も言っているではないか」「神の言葉に耳を傾けないあなたがたこそ、いつも聖霊に逆らっている」と、逆に訴えたのです。

神殿を守ることを誇りとした人々の過ちあやまを、私たちへの警告として受け止めましょう。教会の行事をこなすことに満足しないで、神の言葉を聞くことを何よりも大切にしましょう。教会の人数や財産を守ることに心を奪われないで、日々、悔い改め、御言葉を守ることを求めましょう。

●祈り 神様、私をまことの信仰のうちにお守りください。
大麻教会（日ル・北海道）

8月6日(土)

目が澄んでいれば

マタ六章一九、二四(二三)

讃21一五五 教会三三三

創一章二七、三一 詩三三編一二、三一 マタ六章一九、二四

夜に車を運転する時は、ライトを照らして、前が見えるようにしなければなりません。見えれば正しく進むことができます。私たちの人生も、行き先が見えていれば、正しく生きることができます。目が何を見ているかが、人生の方向を決めます。その意味で《体のともし火は目》です。

私たちの目は、行き先をしっかり捉^{とら}えているでしょうか。お金に目がくらんだり、この世で成功している人を見てうらやんだりしていないでしょうか。そうではなく、天に用意されている御国をまっすぐに見ることが大切です。そのような生き方こそ、《目が澄んで》いるということです。

このような澄んだ目は、肉体的な目とは違う、心の信仰の現れです。それを人が自分の力で持つことはできません。神が御言葉により、私たちの心の目を開いて、澄んだものとしてくださいます。《どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の源である御父が・・・心の目を開いてくださるように》(エフエ一章二七、一八)。

●祈り 神よ、わたしの目を澄んだものにしてください。みさと 美里教会(近畿・和歌山)

天を仰いで、星を数えよ

讃21二三七 教会三三二

創一五章一〜六 ヘブ二一章一〜三、八〜一六 ルカ二二章三一〜四〇

私が前にいた島根県の教会からは、星がよく見えました。たくさん星がきれいに見える夜には、よく牧師館から外に出て、天を見上げました。そして、アブラムが星を見て主を信じたように、私も主を信じました。今日の旧約聖書は、アブラムが天を仰いで星を見た出来事です。

この場面は、《恐れるな、アブラムよ》という主の言葉で始まります。アブラムは恐れていました。その直接の原因は、エラムの王との戦いです。この戦いにアブラムは勝ったものの、戦利品を受け取りませんでした。戦利品の元々の所有者である、邪悪なソドムの王との関係を絶つためです。それは信仰による決断でしたが、戦いの報いが少なかったことはアブラムに疲労と恐れをもたらしただしょう。しかし、もつと大きな問題は、神への恐れです。《わが神、主よ。わたしに何をくださるというのですか》《あなたはわたしに子孫を与えてくださいませんか》でしたから、家の僕が跡を継ぐことになっています。子孫を増やし、土地を継がせるという約束とはそういう意味ですかと、失望や怒りの混じったやりきれない思いをアブラムは神につぶやきます。

すると、主はその考えを退け、彼を外に連れ出して言われました、「天を仰いで、星を数えることが出来るなら、数えてみるがよい」。アブラムは天を仰ぎながら、頑かたくな心が神に向かうようになりしました。彼の目に映るのは満天の星です。その数はあまりに多いので、実際に数えようとは思いません。しかし、主はこれらの星を配置なさった方であり、すべてのことをご存じです。その主がアブラムに言われます。「あなたの子孫はこのようになる」。人間の知恵をはるかに超えた神の偉大さを前に、アブラムは圧倒される思いだったでしょう。

このように見てみると、「アブラムは主を信じた」とありますが、それは強い決心の類とは違うようです。むしろ疲れや弱さ、不信や失望などを通じ、遂に神に降参し、すべてをお委ねしたといったところでしょう。そのような信仰を「主はそれを彼の義と認められ」ました。私たちも試練に遭うとき、天を仰いで、星を見ましよう。私たちが弱り果てて力を失い、主にお委ねするしかないと思うとき、主は私たちを義と認めてくださいます。



●祈り あなたを天を、あなたの指の業をわたしは仰ぎます（詩八編四）。西日本福音事務局（兵庫）

信仰がなければ

ヘブ二章一～七（六） 讃21四五八 教会四〇〇

代下三三章一～一七 詩八九編二～一九 ヘブ二章一～七

創世記四章のカインとアベルの物語は、不思議な話です。カインは土の実りを主に献げ、アベルは肥えた羊の初子^{ういご}を献げました。すると、主はアベルとその献げ物に目を留めましたが、カインとその献げ物には目を留められなかった、と記されています。なぜ、アベルの献げ物は受け入れられ、カインの献げ物は退けられたのか、創世記にその理由は記されていません。

しかし、ヘブライ人の手紙の著者は断言します、《アベルは・・・その信仰によって、正しい者であると証明されました》。神に喜ばれるのは信仰にかかっているのだから、神がアベルを受け入れたのはその信仰によるのが当然ではないか、と言うかのごとく明快に説き明かします。

私たちは人生の中で、どちらを選ぶべきか悩むことがあり、選んだ道が正しかったのか思い煩うことがあります。しかし《信仰がなければ、神に喜ばれることはできません》。信仰があれば、神に喜ばれ、神に近づく道を歩んでいます。信仰によって大胆に歩みましょう。

●祈り 主よ、わたしを信仰によって生きる者としてください。高松教会（ディ・香川）

8月9日（火）

試練で成長する信仰

ヘブ二章一七、二八（二七）

讃21四五八 教会四〇〇

代下三四章二、三三 詩八九編二、一九 ヘブ二章一七、二八

アブラハムが受けた試練とは、創世記二章に記されている、愛する独り子^{ひと}イサクを献げよと神から命じられた試練です。子を献げよとは非常識ですし、まして、イサクから神の民の子孫が生まれるという約束を受けていたのですから、この命令は人間の頭では理解不能です。

しかしアブラハムは、信仰によってイサクを献げました。それまでもアブラハムは、創造主である神を信じていましたが、この試練を前にして《神が人を死者の中から生き返らせることもおできになる》と、復活をも信じるようになりました。その信仰は、イサクを返してもらったことで確信となりました。試練により、彼の信仰は成長し、神をさらに深く知るようになりました。

信仰があっても、意味のわからない試練に悩まされることがあります。それでも信仰は《見えない事実を確認する》（ヘブ二章一）力です。試練を通して、信仰は、私たちが神をさらに深く知ることができるようにし、人生の出来事を新しい視点で見えるように成長させてくれます。

●祈り 試練を通して、私たちの信仰を成長させてください。
いちがや 市ヶ谷教会（目黒・東京）

忠実な管理人

ルカ二章四一、四八（四二） 讃21三九〇 教会三七一

エレ三三章二四、二六 詩八九編二、一九 ルカ二章四一、四八

《主人が召し使いたちの上に立て》た《忠実で賢い管理人》とは、教会の教職者のことです。教職者は教会の支配者ではなく、管理者です。教会は教職者のものではなく、主のものだからです。教職者は、教会の信徒の魂を配慮する努めを主から委ねられた管理者です。

主は、管理者に忠実を求めます。忠実とは、人に従うよりも主に従うことです。使徒パウロもコリントの教会に対して、管理者の忠実について教えました、《人はわたしたちを・・・管理者と考えるべきです。・・・管理者に要求されるのは忠実であることです》（一コリ四章一、二）。

パウロがこう言ったのは、彼を批判し裁く人々に対抗するためでした。パウロを裁くのは人ではなく主であるから、何人も裁いてはならないことをコリントの教会に教えるためでした。私たちも、教職者が人に従うよりも主に従い、忠実を守ることができるよう祈りましょう。そして、互いに裁き合わないようにならう。

●祈り 教職者が忠実を守ることができるよう。東京教会（日福・東京）

故意の罪

ヘブ一〇章二六、三一（二六）

讃21 四四五 教三二〇五

ヨシユ七章一、一〇、二六 詩八二編 ヘブ一〇章二六、三一

意図的に罪を犯してしまうことがあります。悪いとわかっていても、誘惑に負けてしまうことがあります。嫌なことをされたら、復讐してしまうことがあるかもしれません。

《もし、わたしたちが真理の知識を受けた後にも、故意に罪を犯し続けるとすれば、罪のためのいけにえは、もはや残っていません》。クリスチャンでも例外ではないと思うと、恐ろしくなります。また、信じるだけで救われるという信仰との整合性に悩みます。私は、ペトロの殉教の伝説を思い出します。ペトロはローマで迫害に遭い逃げ出そうとしました。その途中イエスさまに出会います。主は「十字架にかかるためにローマに行く」と言われたそうです。ペトロは再びイエスさまを十字架にかけるわけにはいかないと、ローマへ引き返し、殉教したと言われています。神さまは、たとえ故意の罪を犯しても、悔い改めれば赦してくださいと信じます。ただし、私は、罪を犯すたびに、イエスさまの手足に釘を打ち込むような気がして悲しくなるのです。

●祈り 故意の罪を犯さぬよう、また犯したなら悔い改めるよう導いてください。むさしの教会（日福・東京）

ひるまずに

ヘブ一〇章三二―三九（三九）

讃21五五 教会三三二

サム上五章一―一二 詩八二編 ヘブ一〇章三二―三九

日曜日の礼拝の時間帯に、サッカーの試合が組まれました。息子はどちらを選ぶか悩んでいました。その姿を見て、私もサラリーマン時代、日曜日に仕事を命じられて悩んだことを思い出しました。考えてみると、私たちは初代教会の人々のように迫害されなくてもいいかもしれません。しかし、仕事や葬儀や地域の行事など、様々な場面で、信仰を脅かされて^{おびや}いるのではないのでしょうか。ヘブライ人への手紙の著者は、《しかし、わたしたちは、ひるんで滅びる者ではなく、信仰によって命を確保する者です》と語り掛けます。その背後には、命の与え主である神さまの絶大なお力への信頼があります。信頼すればこそ、迫害の中で、ひるまずに生きられるのです。父なる神さまは、サムエル記に書かれているように、絶大なお力を持つておられます。命まで与えることがおできになります。私たちはその神さまを信頼して、ひるまずに信仰を守り、永遠の命を確保させていただきたいものです。

●祈り 苦難や悩みの中でも、ひるまず信仰を守れますように支えてください。スオミ教会（日福・東京）

8月13日（土）

苦難を縮めることができる方

マタ二四章一五、二七（二二）

讃21三六一

教会三八二

サム上六章一、一六 詩八二編 マタ二四章一五、二七

人生には苦難があります。時に、苦難は嵐のように私たちを襲います。そして、私たちの大切にしていったものを根こそぎ奪ってしまふことがあります。

イエスさまは終わりの日について予告されます。《そのときには、世界の初めから今までなく、今後もし決してないほどの大きな苦難が来るからである》。また、《神がその期間を縮めてくださるなければ、だれ一人救われない。しかし、神は選ばれた人たちのために、その期間を縮めてくださるであらう》とも言われます。

終わりの日だけではありません。父なる神さまは苦難をもたらすことも縮めることもおできになります。同時に、その神さまは、イエスさまを十字架におかけになるほど、私たちのことを愛してくださっています。決して、私たちが苦しむまま放っておかれません。そのことを信じるならば、苦難を乗り越える力が湧きます。

●祈り 神さま、苦難の時を縮めてください。札幌中央教会（日ル・北海道）

神さまとの平和

讃21四二九 教会四三六

エレ三章二三〜二九 ヘブ一章二九〜二章二 ルカ二章四九〜五六

明日は終戦記念日です。終戦から七十七年が経ちました。この時期、私たちは、戦争が引き起こした悲劇を振り返ります。多くの人が殺され、傷つけられました。生活が奪われ、家屋が破壊されました。クリント・イーストウッドというアメリカの映画俳優・監督がいます。彼は「戦争を美しく語る者を信用するな」と言いました。二度と戦争を繰り返さず、平和を維持したいものです。それは、イエスさまの御心でもあります。

ただし、イエスさまの平和は父なる神さまとの平和に基づいています。それなので、この世の平和と必ずしも同じではありません。イエスさまは言われます。《あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言っておくが、むしろ分裂だ》。確かに、イエスさまは、平和をもたらすために来られました。ただし、神さまと私たちとの平和をもたらすためにおいでになりました。生まれながらの私たちは、罪深い者であり、天国にふさわしくない者でした。そのために、神さまと不和の關係にあり、滅びるしかありませんでした。しかし、

十字架に架かられたイエスさまを信じるとき、神さまは、私たちとの間に平和な関係を与えてくださいます。そして、復活の命・永遠の命を約束してくださるのです。また、父なる神さまとの平和こそが、武力によらない真の平和をもたらししてくれるのではないのでしょうか。

ただし、イエスさまは言われます。《今から後、一つの家に五人いるならば、三人は二人と、二人は三人と対立して分かれるからである》。神さまとの平和は、しばしば、この世との分裂をもたらします。その分裂は、家族といういちばん親しい関係の間で起こることもあります。私自身もかつて、神さまとの平和を維持するために家族から勘当かんとうされたことが

ありました。ただし、分裂は、必ずしも家族を引き裂くだけとは限りません。家族の分裂がきっかけとなり、家族や他の親しい方々が救いへ導かれることもあるからです。

それなので、これからもイエスさまのみ言葉を信じて、分裂の恐れと葛藤しつつ、神さまとの平和を守り続けたいものです。



●祈り 神さまと平和な関係であり続けますように。奈良教会（近畿・奈良）

真の神さまから出た教えか

一ヨハ四章一～六（一） 讃21五五 教会三三九

エレミヤ書三〇～四〇 詩三編 一ヨハ四章一～六

世の中には神や救い主や預言者であると自称する人々がいます。彼らは、もっともらしいことを語り、人々を誘惑します。多くの人が惑わされ、そのために真の神さまを受け入れようとしません。特に、日本ではその傾向が強いのではないかと感じます。

エレミヤ書を見ますと、神さまは偽預言者たちに対して、《彼らは、それを解き明かして、偽りと気まぐれをもつてわが民を迷わせた》、また、《見よ、わたしは自分の舌先だけで、その言葉を「託宣」と称する預言者たちに立ち向かう》と言われました。いつの時代も偽預言者は存在するのではないでしょう。か。

ヨハネは私たちに言います。《愛する者たち、どの霊も信じるのではなく、神から出た霊かどうかを確かめなさい。偽預言者が大勢世に出て来ているからです》。様々な教えに対し、聖書を基準として、真の神さまから出た教えかを吟味したいものです。

●祈り 聖書のみ言葉を通して、神さまから出た教えか否かを悟らせてください。新田教会（西日本・千葉）

聖靈に逆らう者たち

使七章四四～五三（五一） 讃21 二二 教会三〇〇

エレ二五章一五～二九 詩三編 使七章四四～五三

息子が私に逆らうとき、私は自分と父との関係を思い出します。青年時代に、「お前は一人で生きてきたつもりだろう」と言われた言葉が、今も胸に刺さっています。非礼に氣づいて詫^わびる私に、父は「お前を愛しているから、赦しているよ」と言ってくれました。

ステファノは自分を逮捕した人々に、彼らの先祖が神さまに逆らってきた歴史を振り返り、《かたくなで、心と耳に割礼^{かつれい}を受けていない人たち、あなたがたは、いつも聖靈に逆らっています。あなたがたの先祖が逆らったように、あなたがたもそうしているのです》と指摘しました。そして、先祖たちが預言者を迫害したように、《今や、あなたがたがその方を裏切る者、殺す者となった》と言いました。ステファノは、罪を指摘して、悔い改めへ導こうとしたのでしよう。

私たちも生まれながらに、聖靈に逆らう者かもしれません。しかし、神さまはその罪を悟らせてくださり、悔い改めへ導いてくださいます。そして、悔改めるならば、赦してくださるのです。

●祈り 神さまに逆らう現実と向き合い、悔改めることができるよう導いてください。
すみよしやまて 住吉山手教会（ディ・兵庫）

8月17日（水）

罪を指摘してくれる方

ルカ一九章四五～四八（四六） 讃21四四四 教会二九九

エレ二五章三〇～三八 詩三三編 ルカ一九章四五～四八

牧師になりたての頃の私は、今にもまして傲慢でした。多くの人たちは、指摘されませんでした。遠慮されていたのではないかと思っています。しかし、ある先輩牧師は私の罪を指摘して、「そんなんじや、一緒に働けない」と言ってくれました。後輩である私のために、あえて厳しく論^{さと}してくださったのです。その一言で目が覚めました。今でも感謝しています。

イエスさまは、神殿で商売していた人々を追いつけられ、《こう書いてある。『わたしの家は、祈りの家でなければならぬ。』》とあなたがたはそれを強盗の巣にした》と罪を指摘されました。彼らをも愛され、悔い改めさせるために、あえて厳しく罪を指摘されました。

イエスさまは私たちを愛されるがゆえに、《わたしの家は、祈りの家でなければならぬ》と言われます。私たちも、当時のイスラエルの人たちと同じように罪を犯しているかもしれないからです。あえて、厳しく罪を指摘してくださるイエスさまに感謝したいものです。

●祈り 罪を指摘してください。そして、素直に悔い改めさせてください。三鷹教会（日福・東京）

8月18日(木)

交わりの日を祝う

民二五章三、四一(四二) 讃21三九〇 教会三七一

民一五章三、四一 詩一〇三編一、八 ヘブ一二章三、一七

今日から一週間、「安息」をテーマとして聖書箇所が選ばれています。ご存じのように、安息日の規定はモーセの十戒を通して与えられましたが、創世記が起源となっています。神様が天地万物を六日間で創造なさり、七日目にすべての業を終えて、休み、その日を祝福し聖別なされたのです。そして神様は、この特別な日をおひとりだけで祝おうとなさいません。人間をも含めた世界全体で過ごすようになさる「交わりの日」でもあるからです。

安息日の違反がどうして厳しく罰せられるのか。それは救い出してくださった神様への信頼を失い、共同体全体の交わりから抜けだし、己の不安や思い煩いを自分自身で満たそうとするからです。この人にとって神様と仲間と共に憩う安息は既に失われていました。しかし主イエスはこのような者にこそ《疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのみに来なさい。休ませてあげよう》(マタ二一章二八)と招くために、ご自身を宿宮の外である十字架に渡されたのです。

●祈り 交わりの日なる安息日を心に刻ませてください。保谷教会(日福・東京)

礼拝の醍醐味だいごみ

詩一〇三編一、八（二） 讃21七 教会二七二

代下八章二、一五 詩一〇三編一、八 使一七章一、九

詩一〇三編は《わたしの魂よ、主をたたえよ》で始まり、終わります。なぜなら、主は私たちの罪を赦し、病を癒し、命を墓からあがな贖い出し、慈しみと憐れみの冠を授けてくださるお方だからです。英語で礼拝のことを、ワシシップ、サービス、リタジー等と呼びますが、もう一つ大切な特徴はセレブレーションの時と場であるということです。

安息日が信仰の民イスラエルにとってかけがえないものだったのは、主の救いのドラマを語り直し、心に刻むことを通して、希望と信頼を持続けることができたからです。律法は鏡のように、罪という鎖に縛られた私たちの裸の姿を映し出します。「贖う」とは身代金を払って買い戻すことです。主イエスは命をもって私たちをサタンから取り戻してくださいました。私たちはこの主によって既に救われ、解放され、主のものとされているのです。この福音の喜びを共に賛美と感謝で祝う、ここに聖餐式に極まるセレブレーションの醍醐味が溢れ出てくるのです。

●祈り 福音の喜びを共に賛美と感謝で祝えるように。羽村教会（日福・東京）

8月20日（土）

安息日の主

ルカ六章一〜五（五） 讃21二〇六 教会二八九

ネヘ一三章一五〜二二 詩一〇三編一〜八 ルカ六章一〜五

日曜日は一週間の旅路を始めるための休養日、山道の入口のように思われるかもしれませんが。しかし、入口ではなく目ざすべき山頂、それこそが安息日だと聖書は語ります。つまり、私たちが働く意味、生きる意味は、この安息に憩うことにあるということです。

「しばしば人間は、神よりも宗教的になる」という言葉があります。これは倒錯した人間の愚かな姿を表しています。神よりも宗教的な人間になるという矛盾した姿は、自分が神になっていくということです。ですから、神の名のもとで平気で人を傷つけ、殺し、戦争を行うという過ちさえ起こるのです。安息日は何よりもまず、人間の業（わざ）を止めることです。心と体を休ませ、神がお創りになった自然や家族と共に憩い、その御業に目を向けることです。そこから、神の祝福の下でこの世界と隣人に目を向ける柔らかな心が与えられていくからです。《安息日の主である》とお語りくださる主イエスこそ、私たちの再創造（リ・クリエーション）の源なのです。

●祈り 安息日の主を見護ることのないように。八王子教会（日福・東京）

真つ直ぐに立つ喜び

讃21 四四六 教会三四八

イザ五八章九b〜一四 ヘブ二章一八〜二九 ルカ一三章一〇〜一七
 ルカ福音書が書かれた当時、既にエルサレム神殿はローマによつて壊されていました。信仰のシンボルであり祭儀さいぎの中心であつた神殿がなくなつてしまつた、このショックは並大抵のものではなかつたと思います。この信仰の危機を乗り越えるために行われていったのが、各町や村に会堂を作り、そこで安息日毎に礼拝を捧げるといふ信徒運動でした。その先頭に立つていたのがフアリサイ派であり、彼らは信仰熱心な信徒リーダー達だったので、神殿があつた時には、目に見える壮大な神殿や華麗な祭儀を通して信仰の確信を得ることが出来ました。しかし、神殿がなくなつた今、目に見えない信仰の確信を安息日厳守によつて得ようとしたのです。誰にも悪意などない、真面目に信仰に生きようとする中で、自分たちで祝福と安息の日を、束縛と不自由の日に変えてしまつていたのです。

言つてみれば、今日の福音書に出てくる「腰の曲がつた女性」のようなものです。この女性は何も高齢女性を意味しているのではないと思います。女性であるが故に、この世の様々なしがら

みや偏見、差別、無理解、不条理の中で、それに自分を合わせて生きている内にいつの間にか体を真っ直ぐに伸ばすことができなくなっていた。そのような不自由な生き方を一八年間も彼女は強いられていたのではなかったでしょうか。神さまは私たちを真っ直ぐに立つことができる姿にお造り下さいました。それが真の安息に生きる人間の姿なのです。ですから、腰が曲がった姿とは人間自身の罪が生み出した歪^{ゆが}んだ姿に他ならないのです。

主イエスはこの女性に対して、手を置きながら《婦人よ、病氣は治った》とお語りになりました。これは原文では「婦人よ、あなたの弱さ・無力さからあなたは解放された」という言葉です。この主イエスの福音宣言を聞き、神の解放の御業を共に祝うのが真の安息日であり礼拝です。ひとりで祝うのではない、共に喜び祝うために私たちは教会に集められるのです。この女性が癒され、腰が真っ直ぐに伸びた時、神さまへの賛美の歌が生まれました。真っ直ぐに立つことは、真っ直ぐに天を仰ぐことでもあるのです。ここに礼拝の恵みが溢れ出しています。

●祈り 真っ直ぐに天を仰ぎ、賛美を歌わせてください。札幌山の手教会（日ル・北海道）



「今日」励まし合う

ヘブ三章七、四章一一（三章二三）

讃21五、一六 教会三七〇

エゼ二〇章一、一七 詩一〇九編二、三、一 ヘブ三章七、四章一一

内村鑑三は『一日一生』の冒頭で次のように述べました。「一日は貴い一生である。これを空費してはならない。そして、有効に一日を使用する道は、神の言葉を聴いてこれを始めることにある（中略）。朝起きて、まず第一に神の言葉を読んで、神に祈る。こうして始めた一日の戦いは、勝利とならざるをえない（中略）。このような生涯を終生継続して、一生は成功をもつて終わるのである」。この聖書日課を愛用されている皆さまには良く理解出来る言葉でしょう。

ヘブライ人への手紙の著者は「今日」という日のうちに、日々励まし合いなさい」と勧めました。四十年にも亘った荒れ野の時は、「今日」の積み重ねでもありました。主イエスは、「我らの日用の糧を今日も与えたまえ」と祈ることを教えてくださいました。私たちが目指す安息は荒れ野を通らずに行くことはできません。なぜなら、この荒れ野でこそ主は私たちにみ言葉や兄弟姉妹を通して日毎に出会い、語りかけ、必要なすべてを与えてくださるからです。

●祈り 日々励まし合う交わりに感謝します。 檀原教会（近畿・奈良）

開かれた安息への門

黙三章七ゝ二三（八）

讃21五七九 教会四九六

エゼ二〇章一八ゝ三二 詩一〇九編二ゝ三一 黙三章七ゝ二三

黙示録には七つの教会への手紙が記されていますが、スミルナとフィラデルフィアが「命の冠」「栄冠」を約束されています。この二教会に共通しているのは「迫害」です。ローマからの圧力に同調し、ユダヤ人はキリスト者たちを追い出し、門を閉ざしました。しかし、《見よ、わたしはあなたの前に門を開いておいた。だれもこれを閉めることはできない》と主イエスは約束してくださるのです。

この「門」は信仰の旅路の目的地、安息の地である新しいエルサレムの門に他なりません。つまり、主は私たちがこの世界で門を閉ざされるような迫害を受けたとしても、御国の門はその全権において開いていてくださるのです。《あなたは力が弱かったが》とあるように、私たちの信仰は無に等しいものです。しかし、そのような私たちに主はたえず眼差しまなざしを注ぎ、覚え、《新しい名》をもって命の書へと書き記してください。

●祈り み言葉を守る忍耐を与えてください。北大阪教会（西日本大阪）

両手で恵みを受けとる

ルカ六章六～一一（二〇）

讃21四四六 教会四七六

エゼ二〇章三三～四四 詩二〇九編二一～三一 ルカ六章六～一一

ルカは主イエスに癒やされた人を、「彼」という代名詞を使わずに「人間」という言葉で表現します。ここに、ただ一人の病人ではなく、私たち人間の姿をルカは見ているからです。

「片手」が萎^なえていたという表現は、もう一方の手は萎えていなかったということです。それは、熱心に神さまを追い求める心がある一方で、どうしようもなく冷たく、愛を失った心を持つアンビバレントな私たちの姿と重なります。そして、その状況に安んじていた人に主イエスは《立って、真ん中に出なさい》と命じられます。「起き上がる、立つ」それは復活と結びついた新しい生への招きに他なりません。また《手を伸ばしなさい》というみ言葉は、「安息日の真の恵みを両手でしっかりと受けとりなさい」とお語りになるかのようです。主イエスは安息日だからこそ、その恵みが「今日」受けとられなければならないと考えて下さるのです。私たちの救いは明日でもよいといった悠^{ゆう}長^{ちやう}なものではないからです。

●祈り 主の御前に立ち、両手を差し出せますように。ときわ台教会（ディ・大阪）

祝福を受け継ぐ

一ペト三章八、二二(九)

讃21四四〇 教会二九六

箴一五章二三、一七 詩一二二編 くだり 一ペト三章八、一二

主の祈りの中に「私たちに罪を犯した者をゆるしましたから」という件くだりがあります。そうは言っても、自分が正しくて、相手が間違っていたら、報復を考えてしまいます。しかし聖書は《かえって祝福を祈りなさい。祝福を受け継ぐためにあなたがたは召されたのです》と言います。確かに「やられたら、やり返す」式を繰り返していたら、根本的な解決には至りません。分かっているんですが、止められない。ただ、地球温暖化、感染症、その他にも、自分一人の狭いところでは解決出来ない問題が、これからもたくさん突きつけられて行くように思います。

こんな聖書の言葉も思い起こされました。《自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあるのか。徴税人でも、同じことをしているではないか》(マタ五章四六)。自分を一人の狭い所に閉じ込める壁を、壊してくれる言葉のように聞こえます。そして《祝福を受け継ぐためにあなたがたは召されたのです》と言う言葉に、もう一度心が動かされるのです。

●祈り 主よ、キリストの教会の召しにとなん応えて行きます。都南教会(日福・東京)

恵みの善い管理者

一ペト四章七、二一（二〇） 讃21四三二 教会四一七

箴一八章六、一二 詩一二二編 一ペト四章七、一一

教会では「恵み」という言葉が、よく聞かれたり使われたりします。その意味は「受け取る側の状態如何いかにに関わらず、ただ一方的に与えられるもの」と言われます。これをキリスト教的に表現すれば、罪ある者が神様に対して、何の功績や手柄が無くとも、イエス様を救い主と信じる信仰によって、その罪が赦されて救われる、ということになるでしょうか。

イエス様が生きた時代に限らずいつの時代でも、また場所が変わってもそうだと思いますが、人間が神様を意識する時、何とか神様に気に入られるように、清く正しくしなければと思うものです。それは当然ですし、出来ればそうしたいです。でも出来ない。開き直るのではなく、出来ない自分を、せめて正直に神様に差し出したいのです。きっと、そんな私を受け入れてくれると信じます。それも、主イエス・キリストの神様の恵みのうちにあるからです。

キリストの教会はそんな計り知れない恵みの管理者だとは、それこそ恵みです。

●祈り 主よ、あなたの人知を超えた恵みに感謝します。 田園調布教会（日福・東京）

8月27日(土)

皆に仕える者

マタ二〇章二〇〜二八(二六)

讃21五〇七 教三二九〇

箴二二章一〜四、二四〜二六 詩一二編 マタ二〇章二〇〜二八

今日の福音書の個所の直前に、弟子たちは三度目の十字架の受難予告を、イエス様から聞かされました。三度目ですから、さすがの弟子たちもただならぬ事態がやって来る事を、予感させられたと思われます。そこで弟子であるヤコブとヨハネの兄弟と母親が、イエス様に願い事をしました。「王位に着いたら、二人の息子たちを、それぞれ右大臣と左大臣のようにして下さい」と母親が言いました。大切な二人の息子を、予想される危難を承知で差し出すわけですから、当然の願いでしょう。他の弟子たちも、似たような願いを抱いていたようです。ところがイエス様は、誰もが求めるような当たり前の願い事をするのではなく、お前たちは皆に仕える者になり、皆の僕になりなさいとおっしゃられるのです。現代の教会はこれをどのように聞くでしょうか。

現代社会は先をこぞつて、快適、効率、便利を果てしなく、追求し続けて来ています。それらに追いつく事の出来ない人々もいます。教会はそんな人々と共に、最後尾を歩んで行きたいです。

●祈り 主よ、この世の僕としてゆつくり歩みます。
ゆきがや 雪ヶ谷教会(日福・東京)

へりくだる者

讃21五三三 教会三九三

箴二五章六、七a ヘブ一三章一、八、一五、一六 ルカ一四章一、七、一四

イエス様が安息日の食事に招待された時のことでした。《イエスは、招待を受けた客が上席を
選ぶ様子に氣ついて、彼らにたとえを話された》。食事会に招待されて、自分から上座かみざを選ぶとい
うのは、日本人にはなじまない光景です。心の中では「当然、上座だろう」と思っていますが、ま
ず下座しもざに行くだろうと思うからです。ところが聖書には、ファリサイ派や律法学者が上座を選ぶ
のを、イエス様が批判する記事がしばしば出てまいります。ユダヤ人の間では、それが当然の事
として、まかり通っていたのでしょうか。それだけ律法学者たちは、守るべき事をしっかりと守つ
ているので、自信を持って、自分は上座に座るに値する人間だと思っていたのでしょうか。もつと
も、心の中では「当然、上座だろう」と思っていて、それを表に現わさない事の方が、返って陰
湿にも思います。しかもそうする事が、へりくだる事だと言われたら、それは違ふと思います。
イエス様は《だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる》と言われます。イエ
ス様が言う《へりくだる者》とは、心の中の本音を押し隠す者ではない。自分を取り繕つくろわずに、

正直に自分を見つめ直す事こそ《へりくだる者》でしょう。誰に対してへりくだるのでしょうか。人ではない、主なる神様に対してです。神様に対する取り繕いは、不可能だと分かるようになります。ありのままの開かれた自分こそ《へりくだる者》です。

更に招待する側の人に向かっても言いました。お返しができない人を招きなさい。もともと食事をする時に、最初からお返しを期待しては、普通は、招かないと思います。結果的にお返しがあるかも知れません。しかしそれが目的で招いているわけでもないでしょう。ここでイエス様が言わんとすることを考えて見ます。お返しは期待していませんが、ほとんど結果的にお返しはあります。そうやって、親しい者との付き合いが続けられることになります。それは本当に、私にとっては親しい者だけがいる、閉じた世界と言えるでしょう。しかしイエス様は、むしろお返しの出来ない者たちを招くことで、神様から報いを受けると言います。それは単なる人助けではありません。内にも外にも開かれた《へりくだる者》^{あずか}が与れる宴会、それが神の国の祝宴です。

●祈り 神の国の祝宴に、こんな私も与らせて下さい。 ^{おおおかやま}大岡山教会（日福・東京）



永遠に変わることのない方

ヘブ二第三章七、二二（八）

讃21五〇五 教会三九一

代下一二章一、一二 詩一九編六五、七二 ヘブ二第三章七、二二

以前に読んだ、ある神学雑誌の中の記事の一つに、次のような内容がありました。フランス人の方の経験談ですが、幼児の時に洗礼を受けて、親に連れられて、小学校ぐらゐまでは教会の礼拝に出席していたそうです。しか中学生になってからは、全く礼拝に行くこともなく、親も、自分が礼拝に行くことをあきらめたかのように、勧めなくなりました。

以来三〇年以上が経って、それまで一度も帰省することもなかった故郷を、訪問した時のことでした。久しぶりに教会の礼拝にも、出席しようと思ひ立ちました。故郷の光景は時を経て、それなりに大きく変わっていました。教会の外観は、あの時と変わらないなあと思ひながら、中に入り礼拝に与りました。^{あすか}全てがああの時と全く変わらず、いつも通りの礼拝の雰囲気促されて、言いようのない安心感が、自分の中から沸き起こって来ました。三〇年という時の空白が、一気に埋められて、移り変わる世からは得られない、絶対的な喜びに満たされた瞬間でした。

●祈り 主よ、永遠に変わらないあなたの平安に感謝します。^{おたろ}小樽オリーブ教会（日ル・北海道）

教えに適う人 かな

テト一章一〇九（九） 讃21四四七 教会三九八

イザ二章二一―二七 詩一九編六五―七二 テト一章一〇九

この原稿を準備している頃は、年度末が近く、会員総会を控えている教会もあるのでは、思いました。その総会で、教会役員改選も行われるところがあるでしょうか。役員の皆様の中には、お子さんが信者でない方もおられるでしょう。信者であつても堅信には至っていない、ということもあるでしょう。年齢や家庭の事情などで、教会役員を担えない方々が多くなつて来ている教会も、多々あるのではないでしょうか。とにかく定められた人数の役員が選ばれますようにと、教会組織の体裁ばかりに目を向けている自分に、反省すること大であるこの季節です。

先日、相談したいことがあるので、教会に行つても良いかとの電話をいただき、その方とお話を致しました。初めて会う方ですが、教会の近くにお住いとのことでした。相談というよりも、ただ話しを聞いてもらいたい、ということでした。そのために教会に行こうと思つた人が、近くに住んでおられた。教会組織の維持ばかりに、悩んではいけないと思ひました。

●祈り 主よ、内向きになりがちな自分を戒めて下さい。桜井教会（近畿・奈良）

8月31日（水）

招いておいた人々

ルカ二四章一五、二四（二七）

讃21四四二 教会三〇六

イザ五七章一四、二一 詩一九編六五、七二 ルカ二四章一五、二四

事前に盛大な宴会に招かれれば、当然、予定に入れておくわけですから、直前になって欠席するとなると、余程の緊急事態以外にはあり得ないと思います。ところが今日のイエス様の話によりますと、欠席をする三人の人の理由が挙げられています。畑を買ったのでそれを見に行く。牛を買ったのでそれを調べに行く。新妻を迎えたばかりなので。そんな理由では失礼でしょうと思います。これらの理由を聞いて、招待した人は怒ったということですが、当然だと思います。

この盛大な宴会は、神の国の祝宴のたとえだということです。キリスト教会の礼拝の中で守られる聖餐式は、神の国の祝宴を先取りしていると教えられました。そう言え^{あきはばら}ば牧師になる前には、聖餐式のある礼拝にも、しばしば欠席することもありました。理由は秋葉原^{あきはばら}に買い物に行くと言ったり、上野で展覧会を観ると言ったり、友達が家に遊びに来るから、というものでした。牧師になってからは、こんな自分が無遅刻無欠席です。思いを超えた主のご計画に驚き続けています。

●祈り 主よ、あなたの熱き心配慮に感謝します。カナン教会（西日本・大阪）

9月1日(木)

誘惑に勝利して

創三九章一～二三(九)

讃21五三〇

教会三三五

創三九章一～二三 詩二編 ちようよう フィリ二章二五～三〇

誠実なヨセフは、ファラオの宮廷の侍従長ポティファルに重用されました。しかし、わたしたちはこのように外面的に栄えているときこそ、しばしば誘惑を受けます。神が共にいてくださることを望む者は、肉の魅力や悪の誘いに抵抗し、これに勝たねばなりません。そして、誘惑と試みが繰り返されるとき、それはわたしたちに耐えがたいものになります。

ヨセフは《・・・わたしの意のままにならないものありません。ただ、あなたは別です。

あなたは御主人の妻ですから。わたしは、どうしてそのように大きな悪を働いて、神に罪を犯すことができましょう》と、この誘惑を退けます。神の恵みのみがわたしたちを引き留めて、悪の誘惑をも、恵みと力によって成長する機会としてくださるのです。ヨセフは濡れ衣ぬきぎぬを着せられて監獄に入れられました。《しかし、主がヨセフと共におられ、恵みを施し》とあります。なんとこの監獄が、ヨセフにとって、やがてエジプトの宰相の座に通じる道となるわけです。

●祈り 主よ。あなたの恵みとみことばによって戦いの道を歩めますように。希望の丘教会(ティ・大阪)

9月2日（金）

不誠実という畏わな

申七章二一、二六（二二） 讃21五二九 教会三三四

申七章二一、二六 詩一編 コロ四章七、一七

イスラエルの民は不思議な神の導きによつてエジプトを出て、祝福の約束されたカナンの地に入りましたが、今日の申命記には《畏》という表現が二度用いられています。

畏は宗教的です。生ける真の神を信じる信仰と生活に優まさるものはないはずが、周辺の神々を拝まつみ祀る人々にイスラエルの民は自身の信仰を恥じるようになります。自分たちの数の少なさゆえに心を他へ移し、信仰を隠しさえするのです。このような不誠実の畏は避けたいものです。

もう一つの畏は、カナンの人々が強そうに見えることです。世の中が大きくなり、自分の信仰が小さく思えるのです。神はモーセを通して、ご自身が民と共におられることを知らせ、恐れないうようにと励まします。偶像崇拜そのもので罪を犯さなくても、それに類するものに心を惹かれて、主なる神様を忘れていませんか。祝福された信仰生活に生きがいを得られるように、祈り深く、不誠実の畏に注意しましょう。

●祈り 主よ。御救いとお導きに、わたしと共にいてくださることを感謝します。大森教会（日福・東京）

9月3日（土）

さいわいな人

詩一編一〇六（一、二） 讃21 一二三 教会三九一

申二九章一〇一九 詩一編 マタ一〇章三四〇四二

詩編の一編は幸いな人についてうたいます。《幸い》には、神の恵みの世界に歩むという意味があります。わたしたちがそれを願うなら何よりも神に対する姿勢を問うべきでしょう。

一節が神に対する姿勢の否定的な面をうたとすれば、二節は肯定的な姿勢をうたっています。《主の教えを愛しその教えを昼も夜も口ずさむ人》。教えは「約束」と読み変えることもできます。口ずさむとは思ひ巡らすことです。みことばを尊び、愛し、信賴して生きるのです。《昼も夜も》は一日中、明るいときも暗いときも、さいわいなときも不幸なときもと言えます。

現実が意のままにならないとき、わたしたちは焦り^{あせ}ます。主の教えが自分の現実からかけ離れているように感じるのです。しかし、神はご自身の可能性に立つて約束をなさいます。いかに困難に思えようと、創造の主、無から有を生み出す神が意図されるとき、御力を持つてことをなさいます。そう信じて生きるところに、信仰者の生き方があります。

●祈り 主よ。どんな時もあなたに、みことばに勇氣と力を得て歩めますように。蒲田教会（日福・東京）^{かまた}

十字架を負って歩む

讃21五二一 教会三六七

申三〇章一五〜二〇 フィレ一章一〜二二 ルカ一四章二五〜三三

群衆は、キリストが都に上れば神の国は直ぐにでも現れると思つていたのでしよう。主イエスは、彼らが勝手な予想を捨てるよう、《十字架を背負つてついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない》と言われます。なるほど、禁欲生活をして隠遁者いんとんしゃになる人、文字どおり財を投げ出して修道する人もあるでしょう。しかし主のお言葉はただ家族を捨てることなく、自分の命までも憎むという自己否定へと深めます。十字架は十二弟子に限らずだれであつても《自分を捨て、日々》負うものとして内面化されるものなのです（九章二三）。

《だから、同じように、自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではありえない》。なぜ、一切でしようか。それは、主なる神が私たちのすべてだからです。人は仕事や子供、自身を自分のすべてと考えます。しかし仕事を離れ、子供も自立し、自身も衰えると、寂しさや虚しさが心を支配し、ただ時を愁います。それらは自身のすべてではなかったことを知ります。死は、わたしたちの一切を奪います。それはだれにもやってくる。

神の恵み、福音の計算方法を知らないなら、そのとき、慌て、混乱するのみでしょう。この世界では、主なる神こそが《一切》です。今、私たちの人生について考えましょう。それは建て上げるための費用の《計算》であり、敵と戦うための兵力を考えることです。そして、《まず腰を据えて計算》しましょう。軽率な行動や決断を慎み、思慮深くありたいのです。「主イエスの弟子であること」を完成することの大事さ、その責任の重さを覚えましょう。生きがいがある大事業にかかわる喜びは、犠牲をも覚悟させてくれるからです。

使徒パウロも告白しています。《しかし、わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくと見なしています。キリストを得、キリストの内にいる者と認められるためです》（フィリ三章七〜九a）。

●祈り 御子の賜物を感謝いたします。十字架を負い、従う者としてください。横浜教会（日福・神奈川）



前からの風習にひそむ罪

王下一七章二四、四一（四一）

讃21五、三六 教会三〇三

王下一七章二四、四一 詩一〇一編 一テモ三章一四、四章五

サマリアに移住したバビロンの人々について《主を畏れ敬うとともに、自分たちの偶像にも仕えていた。その子も孫も今日に至るまで先祖が行ったように行っている》とあります。彼らは本当に主なる神を畏れていたわけではなく、表面上イスラエルの神を認めていたにすぎません。

礼拝には出席するが、神社仏閣にも手を合わせて頭を下げる。わたしたちは心が主なる神から離れて、自分勝手な悪の道に歩んでいないでしょうか。一人の主に使えた者はいません。わたし自身が選んだむなしい偶像は、いつも真の神と衝突します。《他の神々を畏れ敬ってはならない。あなたたちの神、主にのみ畏れを抱け》。聖書は、常に純一な信仰を求めています。

信仰には決断が必要です。神を利用するのではなく、わたしたちが主なる神に迎えられていることを知り、お応えするのです。真の信頼には、人格的な交わりとさいわいな生活があります。主イエスがシカルの井戸辺で女性を助け、また重い皮膚病のサマリア人を癒されたように。

●祈り 主よ。あなたの選びとこ愛を感謝します。藤が丘教会（日福・神奈川）

9月6日（火）

世の力に脅かされる

王下一八章九〜一八（二四）

讃21五三九

教会四二二

王下一八章九〜一八 詩一〇一編 一テモ四章六〜一六

サマリアの陥落^{かんらく}は、ヒゼキヤ王とその助言者たちにとつて偶像礼拝を排除する契機となりました。悪を排除するためには、善を強調する以上に良い方法はありません。ヒゼキヤが治世の初めに主の宮を開き、きよめたのは賢明なことでした。

アッシリアによるラキシユの包囲は碑文^{ひふん}にも記されていて、センナケリブがその破壊命令を下した王として述べられています。恐れたヒゼキヤ王は、《わたしは過ちを犯しました。どうかわたしのところから引き揚げてください。わたしは何を課せられても、御意向に沿う覚悟をします》と、恭順^{きようじゆん}の思いを伝えていきます。そのうえ彼は、宝物や主の宮の金で覆った扉や柱までも敵への賄賂^{わいろ}として贈りました。けれども、その結果、さらに敵の食欲をそるることになります。悪が道に立ち足はだかるときは、すぐにでも戦いを始めるべきです。遅かれ早かれ、戦いは最悪の事態になるからです。

●祈り 主よ。あなたのみを畏れ、何者も恐れず立ち向かわせて下さい。寿都^{すつ}シオン教会（日ル・北海道）

9月7日（水）

誰を頼みに

王下一八章一九～二五、一九章一～七（二〇）

讃21四六三 教会四一五

王下一八章一九～二五、一九章一～七 詩一〇二編 ルカ一八章一八～三〇

アッシリアのラブ・シャケの言葉は客観的な事実であり、論理的でさえありました。主なる神に信賴して立つているエルサレムの人々は、信仰を揺さぶられたでしょう。《しかし民は、答えてはならないと王に戒められていたので、押し黙ってひと言も答えなかった》（三六）。王に止められていなかったとしても、誰がこのあざけりと挑戦の言葉に対抗できたでしょうか。大國ロシア軍に囲まれ、侵攻されているウクライナの人々の状況を思います。

信仰に生きることにも厳しさや戦いがあります。ナザレのイエス様、十字架につけられ死なれた方を救い主と信じて生きることが、世間一般の道理になうとはいえません。《誰を頼みにして・・・刃向かうのか》と問われるなら、ただ、「主イエス・キリスト」と答えるのみです。ヒゼキヤ王は、神の預言者イザヤに執り成しの祈りを頼み、神のみこころをたずねました。わたしたちもみことばに聞き、脅威と戦う人々、兄弟のために執り成し祈りましょう。

●祈り 主よ。強大な力に脅かされている人を救い、彼らの信仰をお守り下さい。西奈良教会（近畿・奈良）

9月8日(木)

希望

創六章一〜六(五) 讃21三〇六 教会三〇〇

創六章一〜六 詩五二編三〜一二 一テモ一章一〜二

この一月にシドニー・ポワチエさんが亡くなりました。アカデミー賞を取った「野のユリ」や「いつも心に太陽を」など心に響く素晴らしい俳優でした。出演作品の中に「招かれざる客」があります。そこに登場する両親は娘に「差別をしてはいけない」と教えていました。しかし娘が結婚相手としてシドニー・ポワチエ演じる黒人青年を連れてきたので頭を抱えてしまいます。

人を偏り見ないよう^{かたよ}にしよう。差別しないよう^{みにく}にしよう。そう思っています。しかし身近な問題として、自分に突き付けられた時も大丈夫かどうか、私には自信がありません。

《主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって》と御言葉は語ります。今も同じです。醜い争い、聞くに耐えない言葉の暴力に満ちています。けれどもこの罪の現実の中もお、罪を赦し、新しい天と地に導かれるイエス様を見上げて歩みます。《希望はわたしたちを欺くことはありません》(ロマ五章五)の御言葉に信頼します。

●祈り 主よ、希望のイエス様を見上げて歩みます。西宮南教会(西日本・兵庫)

9月9日（金）

一日も早く

創七章六〇、八章一五（四） 讃21四四三 教会二九八

創七章六〇、八章一五 詩五二編三一二二ペト二章一〇a

洪水が起こったのは《ノアの生涯の第六百年、第二の月の十七日》。水が減り始め、アララト山の上に止まったのは《第七の月の十七日》。地がすっかり乾いたのは、《ノアが六百一歳》の《第二の月の二十七日》（八章一四）でした。一年以上の間、舟の中でした。

テレビもネットもない時代、閉じこもっているしかないなんて！もちろん動物や植物の世話などで忙しくはしていたでしょう。でも自分たち以外の人間がいない、外部との交流がないということが想像できません。宇宙ステーションの飛行士も、地球と様々な交信をしているでしょう。

感染症の広がりから二年以上になります。人と出会うことが難しく、息苦しさを感じておられるでしょう。寂しい思いをしておられる方もおられるでしょう。どうか主が、一日も早く、この箱舟の扉を開けてくださいますように。外の空気をたっぷりと安心して吸い込むことができますようにとお祈りいたします。

●祈り 主よ、この息苦しきから、早く解き放ってください。 こたけむかいはら 小竹向原教会（デイ・東京）

9月10日（土）

海を飛ぶ鳥を眺め

創八章二〇〜九章七（二〇）

讃21三五五 教会二七八

創八章二〇〜九章七 詩五二編三〜一二 ヨハ一〇章一一〜二二
九月。ツバメもそろそろ帰り支度でしょうか。教会の近所にある滝の茶屋商店街には、ツバメが飛び交っています。海の近くなのでトンビがゆつたりと大空を滑るように飛んでいます。

《生き物が水の中に群がれ。鳥は地の上、天の大空の面を飛べ》（創一章二〇）。
おもて

たるみ
垂水の海を眺め、鳥の姿を見る時。日が昇り、また明石海峡大橋に沈むのを見る時。天地の造り主が、小さな私を心に留めてくださっていることに感謝します（詩八編）。

主は、ノアを祝福し《共にいる鳥や家畜や地のすべての獣》（九章二〇）と契約を結ばれました。《人が心に思うことは、幼いときから悪いのだ》。滅ぼされて当然の罪人にもかかわらずです。その主は、罪人の私たちも祝福してくださっています。一方的な恵みです。でもどうして？

その時《焼き尽くす献げ物》がささげられました。今はそれらにはるかにまさるいけにえ、キリストが十字架で血を流してくださっています。完全な赦しが成し遂げられているからです。

●祈り 造り主が心に留めてくださることに感謝します。
ひよし
日主教会（日福・神奈川）

大喜びで

讃21二〇〇 教会三二一

出三三章七、一四 一テモ一章二、一七 ルカ二五章一、二〇

十五年近く使っているボロボロの財布。何度なくしたでしょうか。不思議なことに、その度に戻ってきました。そんなことでスマホをなくしたらどうするの？ご心配いりません。スマホどころかガラケーも持っていないので、なくす心配はありません。

今日の聖書には、一匹の羊を見失った人と銀貨を一枚無くした女性が出てきます。どちらも、私のようないい加減な人間ではありません。他に九十九匹の羊がいるので、それでもいいなんてことは言いません。見つけ出すまでとことん探し回ります。さらに見つけたら大喜びして《家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう》とイエス様は言われます。銀貨を無くした女性も同様です。

こんなことって本当にあるのでしょうか。私のようないい加減な人間は論外としても、羊一匹や銀貨一枚で《友達や近所の人々を呼び集め》るのは大げさな気がします。今までご近所から、同様の理由でのパーティーに呼ばれたことはありません。物の少ない時代や地域には、そしてイ

エス様の時代には、このようなことが本当にあったのでしょうか。不思議です。

これは神の国のたとえです。神は、この羊一匹を探し回る人、銀貨一枚を念を入れて探す女性よりもはるかに大きな愛で、私たちを愛してくださっています。

その大きな愛によって、御子イエス様を送ってくださいました。その尊い血によって、まことの羊飼いいエス様の羊とされました。ただ一方的な恵みで、神の子とされました。

このたとえが語られるきっかけは、徴税人や罪人と呼ばれる人々と食事をするイエス様に、フアリサイ派の人々や律法学者たちが文句を言ったからでした。もしかしたら私たちも「あんな悪い人も赦されるなんて不公平」と感じることもあるかもしれません。逆に、自分自身の罪深さに「こんな私なんて、救われ、神の子と呼ばれる資格がない」と思うかもしれません。

けれども《一人の罪人が悔い改めれば、神の天使たちの間に喜びがある》。あなたのことを他でもない、主イエス様と天の全てが喜んで受け入れてくださいます。この愛に感謝します。

●祈り 主よ、あなたの深く大きな愛に感謝します。横須賀教会（日福・神奈川）



小さい私のために

アモ七章一〜六（二） 讃21四〇五 教会三一四

アモ七章一〜六 詩七三編 一テモ一章一八〜二〇

頼りない私にとって、親は心底、ありがたい存在です。みつともない私のために謝ってくれ、情けなく何もできない私のために代わりに怒ったり交渉してくれたりしてくれました。今度は、この恩を次の世代に引き継ぐ番ですが、相変わらず大人になれないまま年を重ねています。

《主なる神よ、どうぞ赦してください。ヤコブはどうして立つことができるでしょう／彼は小さいものです》。アモスは繰り返し、民のために、主に執り成し祈ります。しかし主は、三度目には《見過ごしにすることはできない》（八）とイスラエルへのさばきを宣告されます。

けれども、罪のために滅ぼされて当然の私たちのために、神の子イエス様が執り成してください。傷のない小羊として、ご自身をささげ、罪の赦しを成し遂げてくださいました。ですから主は、再び、私たちの罪に心を留めることはありません。イエス様に感謝します。どうか主に愛された者として、人を愛し、執り成し祈る者でありますようにと祈っています。

●祈り 主よ、イエス様の執り成しに感謝します。小田原教会（日福・神奈川）

忍耐によつて

二ペト三章八〜二三（九）

讃21四九四 教会三三五

ヨナ三章一〜一〇 詩七三編 二ペト三章八〜二三

《主は約束の実現を遅らせておられるではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです》。

感謝します。もし今まで主が忍耐してくださらなかったら、私がこの世に生を受けることもなかったでしょう。与えられたこの人生。多くの人との出会い。父母、兄弟、友人、喜びも悲しみも分かちあうことのできる妻。それは主が今まで忍耐してくださったからこそと思うと感謝があふれてきます。さらに救い主イエス様と出会えたことは、全てにまさる幸いです。

主の忍耐により与えられた人生。《夜が明け、明けの明星があなたの心の中に昇るときまで、暗い所に輝くともし火として》（一章一九）、聖書の言葉に励まされて、今を歩んでいきたいと願います。そして私たちを造り、愛し、イエス様によつて罪の赦しを成し遂げ、復活の命へと招いてくださる主なる神様と多くの人が出会うことができますようにと祈っていきたくと願います。

●祈り 主の忍耐 与えられたこの人生に感謝します。ゆがわら 湯河原教会（日福・神奈川）

あなたのために祈った ルカ二章三二、三三、五四、六二（三三） 讃21 一九七 教会四一四

ヨブ四〇章六、一四、四二章一、六 詩七三編 ルカ二章三一、三三、五四、六二

弱虫のペトロと言われることがあります。でも私はそう思いません。イエス様が捕まった時、大祭司の家の中までついていったのですから。私ならとくに逃げ出しているでしょう。

《主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております》。この言葉に嘘はなかったでしょう。ペトロは勇気を振り絞って、イエス様についていきました。けれども周囲の人に《お前もあの連中の仲間だ》と問い詰められ、三度も主を知らないと言ってしまいます。イエス様が言われた通りになり、それがペトロの限界でした。《しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい》。このイエス様の言葉が激しく泣いた。ペトロをどれほど慰めたでしょうか。

私たちは今日もそれぞれの場所に出ています。失敗しても大丈夫。全てをご存知の上で、ペトロを選ばれたイエス様が、今日もあなたのために祈ってくださっています。

●祈り 私のために祈っておられるイエス様に信頼します。後志広域伝道（日ル・北海道）

みことばに立つ

出三章一〜九（三） 讃21三六四 教会三九四

出三章一〜九 詩一二三編 ロマ三章一〜八

人生が毎日晴れの日のようであればどんなに良いことか。でも、曇り空の日もあるものです。それは、聖書の中の戒めや掟おきてを読んで、それらを重荷と感^おじてしまう日のことかもしれません。「ならない」という言葉の連続は、私たちを消耗させ、力を奪い去ってしまうかのようです。

そのような中で、「弱い人」という言葉が出てきますから、どんなに配慮に満ちた言葉かと思えば、《弱い人を訴訟において曲げてかばってはならない》という戒めでした。実は六節にも《訴訟において乏しい人の判決を曲げてはならない》という類似した戒めがあつて、相手が「弱い」「乏しい」からと言つて裁きを甘くしてはならないことが強調されています。これは、弱い人々に対して情が移つて判断が曇らおされることがたびたび起こっていたことの表れです。優しさにも見えませんから、区別しにくい。そして、公平にと言つても、人間は完全にはできないものです。だからこそ、私たちは常にみことばに立ち返り、そこに固く立つている必要があるのです。

●祈り 神様、みことばに立つ私たちでありますように。桔梗が丘教会（近畿・三重）
ききようがおか

愛はどこから

ロマ八章三一～三九（三九）

讃21四八七 教会二九五

エゼ二二章一七～三二 詩一一三編 ロマ八章三一～三九

愛はどのようにしたら実感できるのでしょうか。三九歳でパーキンソン病と診断され、「一生治ることはありません」と面と向かって言われたこともある私は、神様の愛、と言われても、それを実感するのは簡単ではありませんでした。

私と同じように思う人がいたのか、パウロは言葉を尽くし、神の愛を立体的に浮き上がらせ、受け取られやすいように配慮しています。最終的には、どんなものであれ、《わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできない》と言って幸いな結末を迎えるのですが、そこまでパウロはどれだけの言葉を費やしたことでしよう。結局は、御言葉によって世界を、そして私たちを造られた神様ですから、私たちは御言葉に活かされ、慰められる中で、心が耕され、御言葉が示す愛を、御言葉を通して受け取っていくようにされるのです。実感することに拘らずに、私たちはあくまで御言葉から、神様の愛を知なのです。

●祈り 主よ、ここまでの愛をありがとうございます。
伊丹教会（西日本・兵庫）

何に目を留める？

イザ五章八～二三(一二) 讃21四〇八 教会三一六

イザ五章八～二三 詩一二三編 マコ一二章四一～四四

旧約聖書を読んでいて驚くのは、どうしてここまで神の民は墮落するのか、ということです。私だったらこうはならない、とまでは言いませんが、私たちと比べて良い条件が揃っているはずなのに、どうしてこうなってしまうのだらうかと思つてしまいます。この章でも、神の民はほしのままにふるまっています。

一日中宴会に身をやつしているような人々の姿に少し注目してみましょう。この人たちの特徴は何でしょうか。《主の働きに目を留めず／御手の業を見ようとしな^わい》。酒宴の席での音楽に必要なものには気を遣^{つか}うが、主の働き、そしてその御手の業には目を留めようとしな^わい。これでは主から離れていくのもある意味当然のことと言わざるを得ません。一度この世的な楽しみに価値を置く価値観が出来上がってしまったら、それを打ち壊して新しい価値観を築き上げるのは容易ではありません。主のお働きに目を留める価値観の中に留まり続けたいと願うものです。

●祈り 主のお働きに敏感であるようにと願います。小竹向原教会あわら伝道所(デイ・福井)

つながりづくり

讃21四三一 教会三四八

アモ八章四〜七 一テモテ二章一〜七 ルカ一六章一〜二三

ひとりのお金持ちがいました。普段、会計は管理人にすっかり任せ、悠々自適の毎日を送っていました。しかし、実はその管理人、主人の財産を無駄遣いしていたのです。そのことが発覚、会計報告を出しなさい、と要求されてしまいます。以後彼は、名前も知られていないのに、不正な管理人という呼び名で有名になってしまいます。恐らくイエス様のたとえ話だろう、とは言われていますが、不名誉なことでも有名になってしまったものです。

彼はある意味で、能力の高い管理人だったのだと思います。いよいよ解雇が言い渡されるか、という時になると、あつという間に主人に借りのある人々の借りを棒引きしてきたのです。これは借りのある人たちにはどんなにありがたかったことでしょう。今とは違って、農業の技術の問題もあったらうし、気候の面でも安定して収穫が見込める時ばかりではなかったはずです。これなら借りを返せる、と思っていたのが、干ばつで畑が干上がり、計算通りにはいかなかった。そこでどうしようかと悩んでいたところ、管理人がやってきて、借りを棒引きして証文を書き直

させる。こんなことでいいのでしょうか、と何度言おうとしたことか。しかし、話はあれよあれよと進んでいくし、こちらとしても背に腹は代えられないので、言われる通りにして、結果としては借りが減って助かった、というような話だったかもしれません。

さて、そうすると、借りのある人たちは、管理人に対して、どのような思いになるでしょう。今回この管理人にはたいへんお世話になった。機会があれば、ぜひ恩返ししたい、そんな思いに自然となるのではないのでしょうか。そのような時、その管理人が職を失い、困っていると聞く。そうしたら、借りのある人の中のひとりぐらいは、場合によっては仕事を紹介してくれることもあったかもしれません。このように、管理人は大急ぎでつながりづくりをして、自らが解雇されてしまった後の備えをしたのでした。驚くことに、それが主人からの称賛を受けることとなったのです。このたとえば、人は結局、誰かとのつながりで生きていく、ということを教えています。私たちも、そのようなつながりを大事にしたいと願わされます。



●祈り 神様 温かい交わりの内に生きていきますように。 甲府教会こうふ（日福・山梨）

古いものを捨てて

使四章一、二二（一〇） 讃21四三七 教会三五二

箴一四章一二、三三 詩二二編 使四章一、二二

私たちとイエス様はどういう関係なのか。今は、愛し愛される関係、という感じで落ち着いていますが、ペトロの言葉を聞くと考えてしまいます。と言うのも、ペトロは決然と、『あなたがたが十字架につけて殺し、神が死者の中から復活させられたあのナザレの人、イエス・キリスト』と言い放っているからです。確かに、私の罪がイエス様を十字架へと追いやった自覚はある。しかし、それを正面切って「あなたがたがイエス様を殺したのだ」と言われると、あまりの後ろめたさのために、「喜びの信仰生活」などとは言えない、という思いにもなりかねません。

しかし、ペトロには、私たちが想像できない、直接イエス様を裏切りながらも赦された、という、決定的な赦しの体験がありました。もう後ろめたさを克服していたのです。私たちも、イエス様を十字架につけてしまったという後ろめたさを越えて、イエス様は赦しのお方だと受け止め、こんな私をも生きるのを赦し、恵みを与えて下さるお方だと信じて、前を向いていくのです。

●祈り 主よ、あなたの徹底的な赦しに感謝します。いいだ 飯田教会（日福・長野）

足りなくても平安

箴一七章一、五（一） 讃21五、二五 教会三五一

箴一七章一、五 詩二二編 一コリ九章一九、二三

日本人は割と格言や名言が好きなのかもしれません。インターネットで見ただけでも、そういったものを紹介するページは枚挙にいとまもないほどです。箴言は、その意味では日本人に合うのかもしれません。その中から、今日は「平安」がテーマの格言を一つご紹介しましょう。《乾いたパンの一片しかなくとも平安があれば／いけにえの肉で家を満たして争うよりよい》。何とも含蓄に満ちた格言です。《乾いたパン》と《いけにえの肉》、《平安》と《争う》がそれぞれ対比される構造になっています。

ここでの問題は「争う」ことです。ごちそうの取り合いになったのでしょうか。そのような中には平安に至る道はありません。乾いたパンの一片しかない家は貧しいのかもしれない。しかし、そこには不思議な落ち着きと静けさがあり、それが、神を知る道へとつながっていく。そこに価値が見出されているのです。足りないようで、そのぐらいいいのかもしれません。

●祈り 神様、いつも心の中に平安をください。松本教会（日福・長野）

知恵ある人とは誰か

箴二章一〇～一六（二一） 讃21四〇〇 教会三一六

箴二章一〇～一六 詩二編 ルカ二〇章四五～二二章四

箴言は、イスラエルの豊富な知恵文学の歴史の中にあります。《知恵》と《知識》は相互に置き換えることができる言葉として今日の御言葉に出てまいります。《知恵ある人を目覚めさせるなら》。何か神様の大きな御業が現れてきそうな、そのような期待感を持たせる御言葉です。

この《知恵ある人》は、すでに神様に用意されていて、大きな可能性を秘めている人のようです。ですから、あとは、目覚めさせるだけなのです。かと言って、それは誰にでも簡単にできるかと言うと、神様の知恵によつて、みことばを通して目覚めさせるということなのではないでしょうか。そうやって目覚めたこの知恵ある人は、キリストを知る知識に富み、そのような知恵はある意味永遠の命そのものと言ってもいいようなもので、それによつて多くの人々を救いに導く。今の時代の宣教のために、ぜひこのような知恵ある人が多く起こされ、彼らがまた多くの人々をイエス様のもとにお連れする働きをしていくように、と願うものです。

●祈り イエス様を知ることが永遠の命であること、感謝します。長野教会（日福・長野）

金は借りるな

箴三章二一六（二） 讃21一五一 教会二六四

箴三章二一六 詩一四六編 二コリ八章八、一五

『箴言』は、世の中、金持ちと貧乏人がいて、神様がそのどちらをも造られたと言っています。

そもそも、この世は平等ではないと言おうでしょうか。そのことは重々承知しています。ですから、そのことで、あまり腹を立てないようにしましょう。「正直者がバカを見ない社会を作ろう」と言ったスローガンを掲^かげて、政治の力でもって、それを実現することは不可能なのです。

《金持ちが貧乏な者を支配する。借りる者は貸す者の奴隷となる》とも言っています。ですから、「金は借りるな」と言うことです。「借金するのはいやだけど、そうせざるを得ない」。そういう局面、立場に追いやられることは誰にもあるかと思えます。そんな時はもう一度、「欲してはならない」との十戒の戒め、神様のお心を伝える言葉を思い起こし、口にして、声にして唱えてみてはいかがでしょうか。ルターの『小教理問答書』の「十戒」の項を見ると分かりますが、「欲してはならない」は、第九、第十の戒めとして繰り返し、語られているのです。

●祈り 神様、あなたの恵みは、私に十分です。沖繩教会（日ル・沖繩）

教えを守る者

箴二八章三、一〇（七） 讃21七 教会二四〇

箴二八章三、一〇 詩一四六編 エフエ二章一、一〇

ここ二八章は、二五章冒頭に、「ソロモンの箴言（補遺^{ほい}）」とあつて、その後半部分の始まりの個所です。二五章の一節には、《これらもまた、ソロモンの箴言である。ユダの王ヒゼキヤのもとにある人々が筆写した》とあります。ヒゼキヤは、北王国イスラエルがアッシリア帝国によつて滅ぼされた（紀元前七二二年時、南ユダ王国の王であつた人です。

当時、滅ぼされた北王国から多くの亡命者が南に流入してきました。その中には当然知識人もいて、その人たちのもたらした格言を新たに編集したのが、この「ソロモンの箴言（補遺）」と言われるものです。四節、七節、九節に、「教え」と言う言葉が繰り返し出てきますが、この言葉は、「律法」と訳されたりする「トーラー」です。神の教え、律法に耳をそむけて聞こうとしないなら、国は滅びると警告を発したのは預言者たちでした。《主の教えを愛し その教えを昼も夜も口ずさむ人》（詩二編二）の道を主なる神様は知っていてくださいます。

●祈り 主なる神様 あなたの教えを愛し、口ずさむ者として生かしてください。津教会（近畿・三重）

人を偏り見るのはよくない

箴二八章二一～二八（二二） 讃21三五七 教会二三二

箴二八章二一～二八 詩一四六編 ルカ九章四三b～四八

十二節に、《神に逆らう者が興ると人は身を隠す》とあります。二八節にも同様の言葉があります。そういうことも起こりえるかな、と体験的に思ったりします。

でも、ある注解書には、《身を隠す》は、「推読にすぎない」とあり、そもそもの意味は、「人が探し出される」ということで、「たとえば専制支配のもとで秘密警察によって、『悪人』が探し出されるような事態を述べている」と説明しています。

『箴言』だけでなく、聖書は読んでいて、分からない、理解できないところが多々あります。そういう時は、いちいち立ち止まらず、とにかく読み進むのが得策かとも思うのですが、その一方で、学問的、批判的な検討にも聞く耳を持って、冷静に受け入れていくことは大切でしょう。聖書は、「神の言葉」であると共に、歴史の産物です。中には間違った表記もあるわけです。思い込みに陥らないように聖書を読み、そこから生ける神の言葉を聞き取っていきましょう。

●祈り 自分の心ではなく、あなたの御言葉により頼む者としてください。 あわたに 青谷教会（西日本・兵庫）

金持ちとラザロ

讃21 一六九 教会一六四

アモ六章一、四、七 一テモ六章六、一九 ルカ一六章一九、三二

これは一人の金持ちと貧しいラザロの話です。そして、二人が死んだ後それぞれどうなったか、と物語は展開します。ラザロは、《天使たちによつて宴席えんせきにいるアブラハムのすぐそばに連れて行かれた》のです。アブラハムのすぐそばと言うことは、上席を与えられたということです。

それに対して金持ちは、陰府よみにおいて、炎にさいなまれ、もだえ苦しんでいます。「ラザロは天国、金持ちは地獄」と言うことでしょうか。この世で良い行ないをした人は天国へ行き、悪いことをした人は地獄に落ちる、という固定観念が私たちには確かにあります。

しかしこの物語は、ラザロが良い行ないをしたから天国へ行つたとも、金持ちは罪を犯したから地獄に落ちたとも語っていません。それではなぜ？ 金持ちとアブラハムのやり取りが続き、最後に金持ちは、《いいえ、父アブラハムよ、もし、死んだ者の中からだれかが兄弟のところに行つてやれば、悔い改めるでしょう》と言いました。つまり「悔い改め」が必要なのです。

この金持ちが今炎の中でもだえ苦しんでいるのは、悔い改めなかったからです。「悔い改める」

とはどうすればいいのでしょうか。それについては、ルカ一五章の「放蕩息子のたとえ」がはっきり教えてくれています。父のもとに帰って来ることが「悔い改め」です。あの息子は「我に返った」のです。つまり、本来の自分の姿に気付いて、そこへと立ち返ったのです。本来の自分の姿とは、父のもとで、父に守られ、養われていることです。つまり神様のもとで、神様の恵みによって守られ、養われ、生かされている、それが自分の本来の姿、在り様です。それに気づき、本来の居場所である神様のもとへと帰って来る、これが聖書の教える「悔い改め」です。

私たちは本来、神様のもとで、神様に守られ、養われることによってこそ生きることが出来る存在です。それなのに、自分の力で、自分が持っているもので生きていけると錯覚して、神様のもとを飛び出し、好き勝手にし、その結果どうにもならなくなっています。

本来の居場所である神様のもとに帰って来るなら、救われます。しかしそのことを認めず、帰ることを拒むなら、つまり悔い改めないならば、炎の中でもだえ苦しみ、滅びるのです。

●祈り 神様 私たちはあなたのもの、あなたのもとで生きていきます。 こたけむかいほろ 小竹向原教会会長町南伝道所（デイ・宮城）



すべては神のもの

アモ六章八～一四（二三） 讃21四一六 教会三三九

アモ六章八～一四 詩六二編 黙三章一四～三二

ここは、北王国サマリアの上流階級に向けて語られた預言で、語られた場所もサマリアです。《我々は自分の力で カルナイムを手に入れたではないか》とうそづく貴族階級の人々です。

その傲慢が、神の力によつて《ロ・ダバル（空虚）》にされるのです。貴族階級の人々は、自分たちの勝利が神の賜物であることを忘れています。また自分たちの力もまた神の賜物であることを認めません。しかし、その事実を謙虚に受け入れ、感謝し、喜ぶことこそ信仰です。

この傲慢な人たちに向かつて、預言者アモスは警告を告げます。しかしそれは、裁きが目的ではなく、悔い改めを求めるものです。アモスは、今日、私たちにも同じ言葉で迫ります。地上の繁栄に酔いしれてはなりません。繁栄の空虚さを知ると共に、その繁栄は、決して自分の力で得た物ではない、とわきまえるべきです。繁栄は、神の恵みの賜物として、感謝し、謙虚に受けとめましょう。そうすることによつて、分かち合うことができ、神に栄光を帰す者とされます。

●祈り すべては神様のもの、分かち合つていきることができましように。 誹訪^{すわ}教会（日福・長野）

恵みの雨を注いでくださるように ホセ一〇章九、一五（二三） 讃21 四一五 教会三五六

ホセ一〇章九、一五 詩六二編 ヤコ五章一、六

イスラエルは、遊牧民からカナンの定住者となりました。その歴史的・文化的変化の中で、そこが主なる神様の約束の土地、即ち主が支配する土地であるという事実を見失っていききました。
しぎよう 嗣業である土地の歴史、文化を支配するのは、
ほうじようしん 豊穰神バアルではなく、主なる神様です。

ですから、その土地における労働（農耕）においても、主なる神様を求めつつ、歴史と文化とに関わっていかねばならなかったはずです。預言者ホセアは、《ところがお前たちは悪を耕し 不正を刈り入れ、
あさむ 欺きの実を食べた》と告げるのでした。

ホセアは、軍事力を頼りにして戦車の数、兵の数を誇ることは、人間の力を頼りとすることで、神様への信頼の欠如であると指摘します。それは、軍事力そのものを非難しているのでも、非武装中立の平和主義の理想を述べているのでもないでしょう。人間の力を絶対視して、神様のお心、その支配を無視する態度が非難されているのです。

●祈り 神様、全地はあなたの慈しみで満ちています。
ぬまつ 沼津教会（日福・静岡）

神のもとに立ち帰れ

ホセ二二章三～一五（七） 讃21 一二五 教会三〇一

ホセ二二章三～一五 詩六二編 マタ一九章一六～二三

ここは、「ヤコブの罪」がテーマです。『創世記』二三章に、ヤコブがペヌエルで、何者かと格闘したことが語られています。ヤコブは果たして勝ったのでしょうか。そもそも、なぜ格闘したのでしょうか。それは兄エサウとの再会を恐れていたヤコブを助けるためでした。

アッシリア帝国の存在は、北王国エフライムに脅威となり、「恐れ」を抱かせました。その恐れから、主なる神様を信頼せず、偶像に頼り、空しい外交政策によって、アッシリアと契約を結び、エジプトとは密約を交わします。それによって「恐れ」から逃れようとしたのです。

ところが、それは二節にあるように、風の牧者となり、熱風を追って歩くことで、欺瞞と暴虐きまん ぼうぎやくなのです。その愚かさに気づかない点が、ヤコブと重ね合わせられているのかもしれませんが。

それゆえ万軍の主は、エフライムに対して、七節で《神のもとに立ち帰れ。愛と正義を保ち 常にあなただの神を待ち望め》と呼びかけているのです。

●祈り 神様、あなたを愛し、信頼し、畏れつつ、待ち望みます。富士教会（日福・静岡）

十日の間苦しめられる

黙三章八、一一（一〇） 讃21四六五 教会四三〇

王下一八章一、八、二八、三六 詩三七編一、九 黙三章八、一一

黙示録が記された頃のスミルナの教会は、まさに試練のただ中にありました。教会に集う人々への迫害がせまり、捕まって牢に入れられ、拷問のすえ殺されるおそれがありました。そのような、まさに危機迫る状況のなかで、主なる神さまはお語りになります。《あなたがたは、十日の間苦しめられるであろう。死に至るまで忠実であれ》。

私たちが死に直面するとき、病院で同じような状況になる人も多いでしょう。もはやベッドから立ち上がることもできず、多くのチューブやコードにつながれて、最期の十日間を過ごすことになります。しかしながら、たとえそのような状況の中にあっても、《あなたは、受けようとしている苦難を決して恐れてはいけない》と主は言われます。《命の冠を授けよう》と約束してください。つている主が、私たちと一緒にいてくださり、御言葉によって励まし続けていてくださいます。ですから、ただひたすら祈りをささげ、主にお委ね^{ゆた}させていただきたいと願います。

●祈り 苦難を恐れず、ただあなたに信頼することができすように。清水教会（日福・静岡）

忠実な証人

黙三章一二、二九（一二三） 讃21五二三 教会三八九

王下一九章八、二〇、三五、三七 詩三七編一、九 黙三章一二、二九

ペルガモンの町は、エーゲ海から二四キロほど内陸に入ったところにあり、紋章が蛇であるアスクレピオスの神殿がありました。エデンの園でアダムとエバを誘惑したのは蛇、つまりサタンです。《サタンの王座がある》と書かれているのは、神殿があるだけではなく、このころ皇帝崇拜の中心地でもあったからです。皇帝を崇め^{あが}ないキリスト者への迫害は厳しいものでした。

ペルガモンに住むキリスト者たちは、イエスさまこそ救い主であるという信仰をしっかりと守り、アンティパスが殉教の死を遂げた時でさえ、キリストに対する信仰を捨てませんでした。

《イエスは、わたしたちのために、命を捨ててくださいました。そのことによって、わたしたちは愛を知りました。だから、わたしたちも兄弟のために命を捨てるべきです》（一ヨハ三章一六）。詳しいことは伝えられていませんが、《忠実な証人》であったアンティパスはイエスさまの愛に生かされて、自身の死をもって仲間たちの信仰を守ろうとしたことでしょう。

●祈り あなたの愛 あなたの御恵みのうちに、生かされますように。 日ル教団事務局

代表交代のご挨拶

須田 博之

早いもので、かつて京都教会の小泉先生から事務局を引き継いで二〇年余り、江藤先生から代表を引き継いでから一〇年程でしょうか、年を重ね、七九歳となり、若いときのような頑張りが効かなくなっていました。それで、先に事務局を日本福音ルーテル教会事務局に引き受けて頂くことになり、今回、代表も日本福音ルーテル東京教会の松本義宣先生に引き継いで頂くことになりました。快くお引き受け下さいましたことを心より感謝申し上げます。

この間、ご多忙な業務の傍ら、執筆して下さいました先生方、編集を担って下さった編集部の高橋先生ご夫妻、表紙の装丁、自作聖画、写真を無償で提供して下さいました絵本作家・画家の秦好史郎先生のご厚意、視力障害者のために点字版を制作して下さいました神水教会点訳の会の皆様、朗読テープ、CDの朗読をして下さった方々、その編集をお引き受け下さいました福山教会の石田勉兄、それに、印刷から発送、インターネット配信の管理、配信まで担当して頂いた大阪のナンデ印刷様、本当に多くの方々のお世話になりました。心より御礼申し上げます。

「聖書日課を読む会」代表交代のご挨拶

松本義宣

二〇一四年から代表を務められた須田博之牧師が退かれることになり、思いがけずも後任を仰せつかることとなりました。聖文舎での刊行が終り、一九九二年から、現在の「読む会」が継承しての「聖書日課」発行となつて三十年、発足時からの歴代代表である故小泉潤牧師、江藤直純牧師、そして須田先生のお名前を聞くと、まったく恐懼きょうくするしかない思いですが、日々「みことば」に生かされるための大切な一つの働きです。まさに《草は枯れ、花は散る。しかし、主の言葉は永遠に変わることがない》（二ペトロ一章二四、二五、聖書協会共同訳より）が「聖書日課」のモットーであり力です。微力ながらこの働きのタスキを繋つなげるために務めたいと思います。

主のお導きと、委員の皆様のお助けと、何より「聖書日課」を愛し、支えてくださる皆様の熱きお祈り、叱咤激励をよろしくお願いいたします。

聖書日課一二三号 あとがき

●昨年、吉野川教会（徳島県）と小豆島教会（香川県）での兼任を終え、大田教会へ着任しました。東京の大田区ではありません。ここは山陰地方の島根県、人口三万あまりの市です。昔は「おおだ邑陀」と呼ばれていたようです。そして、十五キロほど離れた仁摩教会も兼任です。

●大都市圏から訪れた人が、驚いて話していました、「鉄道がまだ電化されておらず、ディーゼルカーが走っている」と。いいえ、驚く必要はないでしょう。日本の鉄道網は三分の一が非電化です。JRを「汽車」と呼ぶ人が多いのは、前任地の徳島県も同じでした。そして、車で三十分ほど走ると、四年前に廃止された三江線さんこうせんの線路や駅舎が残っています。中山間地域ちゅうさんかんちいきの衰退は著しく、どこも耕作放棄地と空き家ばかりが目立ちます。鉄道のみならず、これまで築かれてきたインフラの整理や再編に、歯止めの掛からない状態があるわけです。

●このような現実、近い将来、大都市圏にも波及するはず。キリスト教会も兼牧や無牧が増える中、どのように一つひとつを維持するかは喫緊きつきんの課題です。しかし、福音の言葉は朽ちることがないでしょう。聖書日課が、これからも私たちの一助となることを願います。（藤江）

聖書日課123号(2022年7~9月)執筆者

7月 1日~7月 6日	高橋 誠(ディコンリー福音教団豊浜教会牧師)
7月 7日~7月13日	山下 寛(近畿福音ルーテル東垂水教会牧師)
7月14日~7月20日	橋内明裕(ディコンリー福音教団御影教会牧師)
7月21日~7月27日	徳野昌博(日本福音ルーテル仙台・鶴ヶ谷教会牧師)
7月28日~8月 3日	山口卓也(元日本ルーテル川崎元木教会牧師)
8月 4日~8月10日	梶西昭男(西日本ルーテル吉野川教会牧師)
8月11日~8月17日	宮澤重徳(日本ルーテル新潟のぞみ教会牧師)
8月18日~8月24日	伊藤節彦(日本福音ルーテル栄光教会牧師)
8月25日~8月31日	清水 臣(日本ルーテル戸塚教会牧師)
9月 1日~9月 7日	池上 安(西日本ルーテル教会引退牧師)
9月 8日~9月14日	山下 寛(近畿福音ルーテル東垂水教会牧師)
9月15日~9月21日	橋内明裕(ディコンリー福音教団御影教会牧師)
9月22日~9月28日	徳野昌博(日本福音ルーテル仙台・鶴ヶ谷教会牧師)
9月29日~9月30日	乾 和雄(日本福音ルーテル神戸東教会牧師)

イラスト	沙音(さおと)ルリ	イラストレーター
表紙の装丁	はた こうしろう	絵本作家

ルーテル「聖書日課」を読む会・発行委員

日本福音ルーテル教会	松本 義宣(代表)
近畿福音ルーテル教会	須田 博之
日本福音ルーテル教会	乾 和雄
日本ルーテル教団	宮澤 重徳
西日本福音ルーテル教会	藤江 健
フェロシップ・ディコンリー福音教団	高橋 誠(編集局)

聖書日課第123号 2022年6月1日発行

発行者:ルーテル「聖書日課」を読む会

事務局:日本福音ルーテル教会 事務局

〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1

[Tel:03-3260-8631](tel:03-3260-8631) FAX:03-3260-8641 E-mail:seishonikka@jelc.or.jp

印刷製本:ナンデ印刷株式会社

ホームページ:<http://seishonikka.org/>

聖書日課はインターネット&メルマガでも配信しています(有料)



NO.123

2022 年 7 月 · 8 月 · 9 月